

Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

焼津福祉文化共創研究会通信 第68号

●2025年度

「地域活動実践事例から、これからのご近所福祉のあり方を探る」 の活動テーマをもとにスタート

2025年度、活動7年目に入った。本会の活動基調は、「さまざまな分野で活動する人たちや福祉職に従事する人たちが、専門分野と世代を超えて交流を図る」「会員だけが求心的・閉鎖的に集うのではなく、広く市民に開かれた活動をめざす」「既存のコミュニティ・福祉組織の活動から取り残された問題や新しく発生してきた問題を大切に、つねに市民生活に密着した活動をめざす」の3つを掲げて取り組んできた。

2025年度の活動に当たっての「着眼項目」は、

- (1) これまで公表されてきた、県内外の「地域実践活動事例」をもとに、“ご近所福祉”を検証しつつ、この6年間の「ご近所福祉の地域課題」を整理し、これからの地域づくりについて議論を深める。困りごとを解決する支援及び地域資源を議論し合う。
- (2) 「地縁組織と志縁組織」を探り、「協働」の意義を質す。
- (3) 会員はじめ、地域活動に関心のある地域住民に呼びかけて、「語れる環境」,「地域総合型学習」の醸成に努める。
- (4) 「教育とコミュニティ」「教育と福祉」「理論と実践」「専門性と市民性」の『融合』を質す。
- (5) 「若者発 ご近所福祉かるた」を地域福祉教育教材として、ご近所福祉の推進に、更なる活用方法の開拓に努める。

●具体的な活動内容

(1) 会議等

① 定例研究会の開催

- (a) 原則、毎月第2土曜日、18:30~21:00を定例開催日とする。
- (b) 各種活動の状況に応じて、臨時研究会をもって、円滑な運営に努める。

② 事業関連部会設置と開催

- (a) これまでの6年間の活動の取り組みから、「調査研究部会」、「広報部会」、「研修部会」を必要に応じて設置。
- (b) 本会活動の活性化と円滑な展開のため、事業別部会を設置して運営する。

(2) 調査研究事業

① 「ご近所福祉」を検証する

「1年目活動:地域ぐるみの居場所検証」「2年目活動:ご近所福祉 その意識と実態調査検証」「3年目活動:児童の福祉意識検証」「4年目活動:高齢者福祉意識検証」「5年目活動:中学生ご近所意識検証」の5年間のあらゆる角度の取り組みから「ご近所福祉」を前年度検証した。今年度は、困りごとを解決する支援方法や地域資源を研究協議する。

② 「若者発 ご近所福祉かるた」の更なる活用事例を収集する

協働団体:静岡福祉文化を考える会が、企画制作した「若者発 ご近所福祉かるた」をこれまで10年間提供した県内の福祉施設・グループ・団体、地域実践者に「活用状況」を問い合わせた結果をもとに、各領域における活用状況をまとめた「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」を更に、多くの活用事例に発展できるように、活用事例を収集する。

(3) 研修事業

- ① 県内外の各地区の地域実践活動事例をもとに、“ご近所福祉”を検証し、身近な地域のあり方を議論する。
- ② 「若者発 ご近所福祉かるた」の活用方法を考える

平成27年度、令和3年度及び令和6年度に、協働団体:静岡福祉文化を考える会が企画・制作(合計300セット)した「若者発 ご近所福祉かるた」の活用方法をこれまで作成した「若者発ご近所福祉かるた利用の手引き」及び「若者発ご近所福祉かるた活用事例集」をもとに定例会等中心に研究協議をする。

③現場実践の機会を持つ

「若者発 ご近所福祉かるた」の活用による「近助」のあり方を、学校教育領域をはじめ、コミュニティ組織、志縁組織、施設等において学び合う機会を働きかける。

④「会員レポート」の取り組み

定例研究会において、それぞれ会員が日ごろ考えていること、思っていることを「テーマ」に語り合い、その後、意見交換の場をつくる。

(4) 広報事業

- ①「静岡福祉文化を考える会」ブログとのリンクにより、広く活動を通じた問題提起を発信。
- ②焼津福祉文化共創研究会通信の発行(原則、毎月1回発行、A4版、両面印刷 100部) 主には、メール発信に努めるとともに紙媒体で補う。

◆「本会通信」配布・送信先

PCメール送信先	配布及び郵送
1. 静岡県行政各課 (地域福祉課/静岡県民児協/関連部署地域振興課) 2. 焼津市行政各課 (地域福祉課・市民協働課・広報課・地域包括ケア推進課) 3. 静岡県・焼津市各社会福祉協議会 4. 静岡県コミュニティづくり推進協議会 5. 公益財団法人さわやか福祉財団 6. 公益財団法人愛恵福祉支援財団 7. 公益財団法人あしたの日本を創る協会 8. ふじのくに未来財団 9. 静岡福祉文化を考える会役員 10. 管内福祉施設連絡会(13介護事業所) 11. 管内外活動グループ・個人(10) 12. 管内中学校(2) 13. マスコミ各社 14. 県内NPO法人(2) 15. 港地域づくり推進会(港第14自治会長)	1. 会員(6) 2. 焼津市ボランティア連絡協議会加盟団体(17) 3. 静岡福祉文化を考える会役員(18) 4. 港地域づくり推進会 5. 港第14自治会(17) 6. 港第23自治会(19) 7. 小川小学校 8. 小川中学校 9. 港小学校 10. 港中学校 11. 県立焼津青少年の家 12. 小川地区コミュニティ推進会 13. さわやかクラブ連合会やいづ 14. 小川地域交流センター 計 90枚

③マスコミへの積極的な情報提供

(5) 関係機関・団体との連携

- ① 静岡県社会福祉協議会、焼津市社会福祉協議会及び近隣社協への情報提供・連携
- ② 「地方発 福祉文化の創造」の実践を基に、静岡福祉文化を考える会及び日本福祉文化学会との情報共有、地方発福祉文化実践活動の発信
- ③ 関係機関・団体、管内学校教育(小・中各2校)・社会教育領域への情報提供
- ④ 焼津市V連絡協議会との連携
- ⑤ ふじのくに未来財団への情報提供
- ⑥ 静岡県コミュニティづくり推進協議会(コミュニティ活動集団助成団体として)への情報提供
- ⑦ 港地域づくり推進会、港地域交流センター、小川地域交流センター、小川地区コミュニティ推進会及び管内自治会(町内会)への情報提供
- ⑧ 焼津市民生委員児童委員協議会への情報提供
- ⑨ 公益財団法人あしたの日本を創る協会への情報提供
- ⑩ 公益財団法人さわやか福祉財団への情報提供
- ⑪ その他、必要に応じて関係機関・団体に情報提供



近所の大切さ かるたで学ぶ



「若者発」ご近所福祉かるたの活用事例集について説明する平田代表(焼津市)

福祉文化を考える会

かるたは、大学生が高齢者を訪問する研修の中で得た学びを読み札に反映させた教材、A4判40の事例集には、「会釈して通り過ぎれば 顔なじみ」暮らし時 帰る子どもに一声を」といった読み札、絵札各46枚の解説を掲載した。家庭をはじめ、多世代が集う居場所、放課後児童クラブなどで実践されてきた遊び方や、かるたをきっかけに、

かけにした「近所」に関する語り合いの広げ方などを紹介した。冊子の挿絵は、絵札を題材とした島田市の漫画家法月理菜さんに協力を得た。平田代表は「近所の支え合いや世代を超えた交流の意義について、かるたを通して学び合ってほしい」と事例集の活用を呼びかけている。

支え合い再認識事例紹介

静岡福祉文化を考える会(平田代表)が隣近所で支え合い大切さを再認識してもらった、「若者発」ご近所福祉かるたの活用事例集を作成した。2015年度に同会が製作したかるたを基盤とする学校や地域グループなどから寄せられた取り組み事例を紹介している。

ご近所福祉再構築への関心が多く寄せられている

本会は、2024年度の主な活動として、協働団体「静岡福祉文化を考える会」が、赤い羽根共同募金助成事業により取り組んだ「若者発ご近所福祉かるた」の増刷・配布提供と、この10年間かるたを活用した団体・施設等の活用調査結果をもとに「若者発ご近所福祉かるた活用事例集」の制作に協働で取り組んだ。その内容が、4月2日の静岡新聞に掲載された。

記事掲載当日から、現在までに70件もの問い合わせがある。

県内各地はもちろんのこと、埼玉県・熊本県・神奈川県等県外の自治会役員や民生委員、居場所運営関係者等幅広い領域から、「かるた」の購入、「かるた活用事例集」の提供希望が多く寄せられている。こうした問い合わせから、地域社会の希薄化や、ご近所同士のコミュニケーションをいかに維持していくか、「ご近所福祉の再構築の必要性」等今日的な課題が浮き彫りになっている。

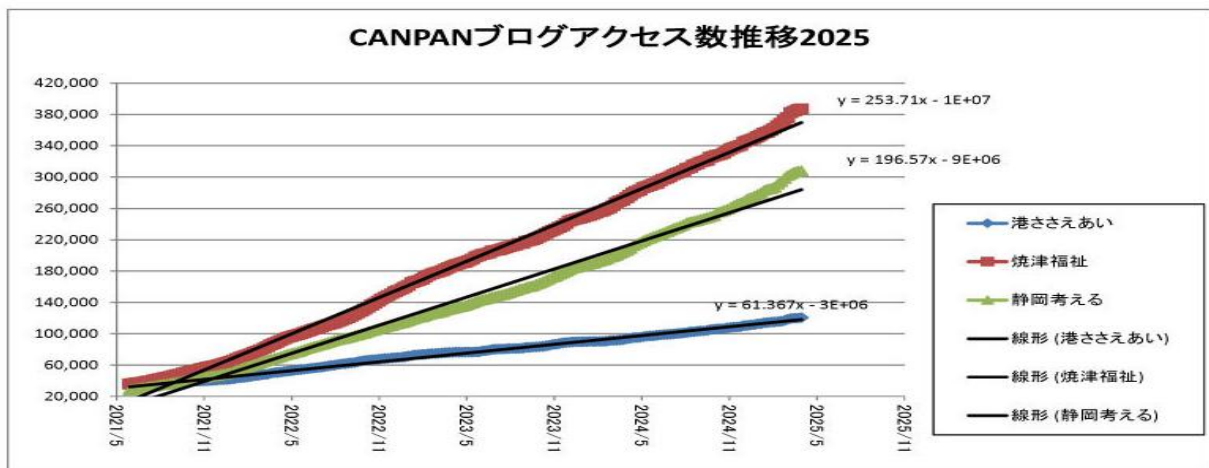
西部地域にお住いの91歳の方からは、高齢者の集まりに出かけても、いつも愚痴ばかり。かるたで、これからの地域を学びたいと語られていた。

突然、「FM やいづ」から、「ご近所福祉」を取り上げていただけると連絡があり応じた。



本会活動の情報発信 “ブログ”アクセス件数が最近多くなっている

本会の活動状況(定例会議事録・研究会通信・各種資料等)は、日常的にブログにアップし、活動の「見える化」「わかる化」に努めている。下記の表は4月7日現在のものである。4月に入り、1日4,000件のアクセス件数もあり、身近な地域活動への関心高まりは、こうした統計からも伺える。





シリーズ⑫ 若者発 ご近所福祉かるたで学ぶ

このコーナーでは、平成27年度・令和3年度・令和6年度に、協働団体：静岡福祉文化を考える会が、赤い羽根共同募金地域福祉広域助成事業により、世代を超えて身近な地域社会を学ぶ、地域福祉教育教材として作成した「若者発 ご近所福祉かるた」(本会活動参画)を本誌第57号から「シリーズ」で紹介。

今回は「に」「ぬ」「絵札」は、漫画家 法月理栄様が作画。

*かるた等の問い合わせは、054-624-1924 平田まで



穏やかで、笑顔のあふれるつながりが、良い人間関係が継続されます。「さりげない付き合い」で、より良い人間関係を創りましょう。



「集まるサロン」は、自発的に自由に、対等で、そして本音で語り合えて、いつも笑顔がいっぱいです。「集めるから集まるサロン」こそ、「真の地域ぐるみの居場所」です。

焼津福祉文化共創研究会事務局日誌拝見(3/01~4/16)

- 3/01 令和7年度活動計画検討 研究会通信第67号配布・メール送信作業
- 3/08 第4回焼津市V連代表者会出席(令和6年度活動実施報告書提出)
*本会通信第67号を配布し、2024年度の活動報告と「かるた」活用呼び掛け
- 3/27 3月(第72回)定例研究会開催
- 3/27 焼津市社協に、「個人用V保険」加入手続き
- 3/28 3月(第72回)定例会議事録作成(ブログへアップ依頼)
- 4/02 考える会「かるた活用事例集」関連記事が掲載
- 4/06 考える会「かるた活用事例集」関連記事反響大きいことを新聞社記者に伝える
- 4/08 4月定例会開催日程調整の結果、4月26日(土曜日)18:30 開催で連絡
- 4/10 事務局調整協議(規約改正、通帳管理、研究会通信第67号増刷50部)
- 4/14 考える会「かるた活用事例集」問い合わせ対応
(連絡先確認の方に、順次手紙で状況説明、研究会通信同封)
- 4/15 本日現在「かるた活用事例集」関連記事問い合わせ件数 70件
- 4/16 「焼津福祉文化共創研究会通信第68号」作成作業
- 4/19 令和7年度 焼津市V連絡協議会総会及び第1回焼津市V連・代表者会出席
- 4/22 「焼津福祉文化共創研究会通信第68号」配布・メール送信作業
- 4/26 4月(第73回)定例研究会開催

本会は、平成28年度から3年間、中学校区を中心に、地域の課題を学び合おうと、住民主体に「地域ささえあい講座」を開講し、延べ614名の地域住民が参加した。この学び合いの成果をもとに、継続的な話し合いの場をつくろうと、令和元年度に結成し7年目の活動に入った。身近な地域のことを一緒に語りませんか。

本会(「焼津福祉文化共創研究会」)への問い合わせは下記をお願いします。

〒425-0041 焼津市石津3丁目10-8 焼津福祉文化共創研究会 平田 厚

Tel&fax054-624-1924 090-4861-4547

E-MAIL: monogusa-tomy@theia.ocn.ne.jp



焼津福祉文化共創研究会QRコード



協働団体：静岡福祉文化を考える会QRコード

Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

焼津福祉文化共創研究会通信 第69号

●4月定例研究会「ご近所福祉」検証
地域実践活動者を迎えて、身近な地域課題を大いに語り合う

7年目の活動に入り、4月26日開催した「4月定例会」は、焼津市内で小地域活動に取り組みられている実践者を迎えて、尊い「地域活動への参加のきっかけと活動の現状」を学ぶことが出来た。実践事例の概要は次の通り。

定年退職後、地域への関わり・地域参加の糸口として、市社協主催の「居場所関連講座」に参加した。講座修了後、学びを実践に活かそうと、受講者の5名程の皆さんと共に、町内会役員との協議により、公会堂の使用が認められて「居場所」を立ち上げ、月1回平日午前が開所し4年程が経過した。この公会堂では、開催曜日を変えて、ほかのグループが「居場所」を開所している。登録制をしないで、毎回15名程の高齢者の方々が参加し、和やかなひと時を過ごしている。運営費は、参加費200円と町内会及び市社協助成金をもとに、毎回「行事用保険」に加入、全体の運営に活用している。毎月の運営プログラムは、地域の資源を活用しながらも、集団の支援から個別支援等工夫をしながら取り組んでいる。男性の参加呼びかけ等の課題がある。広く、市内の各種講座等に積極的に参加されて、情報交換の機会をもつ努力をされている。

○尊い実践活動事例の学びから、浮き彫りになった要点は、

1. 地域活動への4つのアクセス
 - A 条件が整った・生活に一区切り出来た
定年退職・子供の成長とともに、地域を知るために
 - B 講座や学習会、研修会の延線上で、いかに、地域課題を把握し、学びを実践活動に活かすことが出来るか
 - C 身近な地域環境で、高齢者や障害者問題でご苦労されている方々に共感して協力する
 - D 今でなければ、チャンスがない まずは実践すること
2. 改めて、今、なぜ“居場所”かを考える

昭和50年代当初は、高齢化社会(高齢化率7% 昭和3

平成7年時代)を迎えるに当たり、高齢者問題を取り上げ、その中で、「居場所」が開設されている。2000年に介護保険制度が導入されたが、制度改正で、地域移行になる中で改めて「居場所」が浮上している。超高齢社会(高齢化率21% 平成22年時代)になり、ますます、地域社会全体で支え合う仕組みの課題がある。世代や領域を超えて「みんなの居場所」の時代を迎えている

3. 地域活動の3要素

- (1)「もの」・・・地域資源の開拓・活動拠点 →「公会堂の活用」
- (2)「人」・・・地域資源の開拓・担い手(支援者) →「地域住民」
- (3)「かね」・・・活動費 →「市からの助成金」(申請に基づき)「町内からの助成金」「参加費」

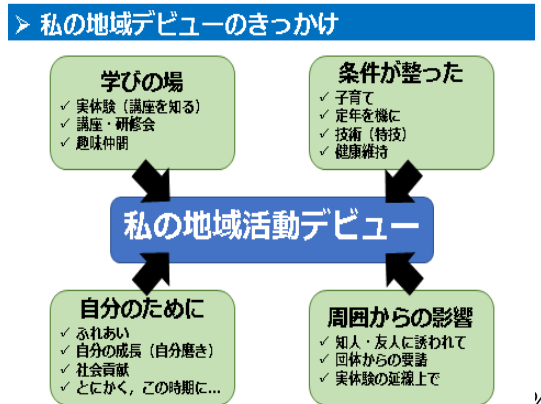
4. 地域性の把握 →「小地域における活動のあり方」「コミュニティ活動における福祉活動の位置づけ」

5. 活動・運営の工夫 → 当事者(参加者)主体の運営ができるか、また、対等な関係を維持できるか
さまざまな援助技術 →「集団援助」から「グループ援助」そして「個別援助」への発展

6. 協働による地域活動 → 地縁組織：コミュニティ組織(リーダー)の認識の有無

志縁組織：管内の関係団体等の認識の有無

(地区民生委員児童委員協議会、さわやかクラブ、子ども会、趣味同好会等)



7. 地域住民の意識改革 → 「与える福祉からつくる福祉」「住民主体・住民参加」

8. 身近な地域の情報収集方法の工夫

●いろいろな居場所開設事例 「いかずい北川原」(居場所)開設の経過と現状を語る

ゲストによる尊い活動事例(居場所立ち上げと現状)に関連して、本会定例研究会会場である「北川原公会堂」では、これまで6年間「いかずい北川原」名称で「居場所」を開所した経緯を紹介した。

◆平成26年度から3年間にわたり、これからの公会堂の有効活用を議論をした。

区画整理により、借地に旧公会堂を立てていたが、解体後、公会堂の必要性を議論し、町内会の土地を保有し新たに新設した。公会堂を縛りのある管理的使用規程から、自由に使用できる開放型規程改正し有効活用の一環として「みんなの居場所ーいかずい北川原」開設を町内会事業(町内会内の「公会堂運営委員会」に置いて、毎月状況報告協議)として位置づけた。毎週金曜日9時から15時まで、来てよし帰ってよしの自由に立ち寄れる場所として、町内外の誰もが利用できる運営に努めた。

“地域ぐるみの居場所”をめざす!	
<p>キヤッチコピー</p> <p>活動紹介</p> 	<p>平成29年5月に「いかずい北川原」は開所しました。名称は「いきましよう、400年の歴史あるこの地域へ」の思いを込めて、港第14自治会、第12町内会の総会で決まり、北川原公会堂運営委員会(月1回開催)のもとに運営しています。</p> <p>“集める居場所”から“集まる居場所”に努め、多くの人を集めるのではなく、少人数でも運営できる環境づくりに心がけています。</p> <p>おしゃべりが基本ですが、お互いに話題を持ち寄り「楽しい居場所」になるよう心がけています。3年目の今年は、テーマ型プログラム(第1週脳トレ、第2週創作、第3週介護相談)を設けて自由に参加できる環境づくりを試みました。</p>
<p>メッセージ</p> <p>北川原地区は、長年にわたり、会員相互の連携と協働による支え合いにより、過ごしやすい地域環境が維持されています。</p> <p>一般社会で言われている「高齢者支援」中心の「居場所」ではない、「地域ぐるみの居場所」としての機能を持ち、「自然発生的」「新規単独型の居場所」「共助型」として、開所3年目を迎え引き続き、広く会員相互に共有し、世代を超えて、いつでも、だれでも気兼ねなく「立ち寄る居場所」を目的としています。 ※他の町内会の方々も自由に立ち寄れます。 【世話人代表 平田厚】</p>	<p>ここに注目!!</p> <p>地域のご近所づきあいから発生した年齢に関係なく誰もが集まれる「自然開放型居場所」です。居場所と町内会のお知らせや行事を掲載した「いかずい北川原通信」を毎月発行し、2019年2月にて第64号まで発行しています。</p> 
<p>やいちゃんのワンポイント</p> 	<p>居場所のいろいろなお話をお聞きして、地域のことを大変熱心にお考えになっており、将来を見据えて活動なさっていることが伝わってきました。居場所「いかずい北川原」は、高齢者はもちろん親子でも子供たちだけでも気軽に立ち寄れる居場所です。利用者と運営側との垣根がなく、同じ目線で運営されている理想的な「寄り合い処」の一つです。この3年間で趣味同好会も誕生しています。</p>

◆公会堂の有効活用の兆しが見えてきたとして町内会事業6年間の実践の位置づけを解いた。これまでの取り組みからの考察として、当地区は、これまでは、農業中心の集落であり、住民同士の強いつながりがあった。その後、長年の区画整理事業により、60世帯が180世帯ほどになり、若い世代家族の居住者が多くなり(高齢率20%以下)、新たな地域課題が浮上しているコミュニティ運営に、「福祉事業」をいかに位置づけていくか、町内会に「集まる場所」がある認識を、広く会員に啓発し、今後さらに、地域交流できる場所としていく取り組みが期待される。



*町内会福祉事業「いかずい北川原居場所」開設式に、多くの方々に参加した

●ここまでの活動から“集まる居場所”と“集める居場所”を検証する

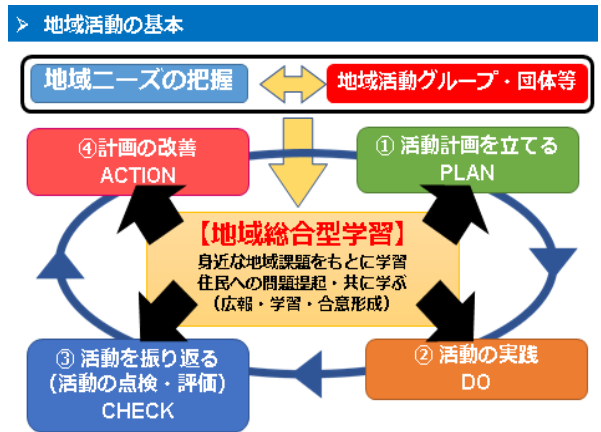
楽しいを創る私の地域は、「集めるから集まる地域」を心掛けることを確認した。

キーワード	心境	場所	自発性	主役	人数	ルール	組織関係	相性	開催
集める地域	建前	公的	誘われ従う	関係者ボランティア	大勢	あり	あり	無視	月1回程度
集まる地域	本音	私的	自発的積極的	本人 仲間	4~5名程度	なし自発的	なし 対等	大切	ほぼ毎日

本会では、さまざまな分野で活動する人たちや福祉職に従事する人たちが、専門分野と世代を超えて交流を図ることや、会員だけが求心的・閉鎖的に集うのではなく、広く市民に開かれた活動をめざしている。

また、既存のコミュニティ・福祉組織の活動から取り残された問題や新しく発生してきた問題を大切に、つねに市民生活に密着した活動をめざすなどを掲げている。

今年度は、特に、着眼項目として「地域実践活動事例」をもとに、“ご近所福祉”を検証し、これまでの6年間の「ご近所福祉の地域課題」をさらに整理し、これからの地域づくりについて議論を深めるためにも、こうした貴重な実践事例を基に学び合っていきたい。



●懐かしい学び合いの一幕“地域ささえあい講座”

平成28年度「港地域ささえあい講座」を開講。プログラムの一つ「ワークショップ：支え合いゲーム」では、参加者それぞれが「困りごとカード」3枚ずつを持ち、お互いに、支え、支えられる関係が成立すれば握手。世代を超えた学びの場では、「スマホの操作教えてほしい」「じゃあ、お任せください」で一斉落着。助け上手と助けられ上手が見事に演出できた。こんな地域であれば、いつでも、何でも言い合える。◇今年度の月例研究会は、「私の困りごとを、ご近所の支え合いで、どのように解決できるか、アイデアを出し合います。ぜひご参加を。



■ 公益財団法人さわやか福祉財団助成事業「地域共生社会をめざす仕組み検証事業」 「ホッとする、安心した地域づくり その意識と実態調査報告書」より

4月定例研究会の実践事例に関連して、本会が、港地域づくり推進会（港第14・23自治会）管内の高齢者（315名回答）を対象に、2022年度（令和4年度）に実施した調査から「居場所」「住み慣れた地域で困った時必要なこと」「地域に必要なこと」の回答を紹介する。

□居場所に運営について

- ①いつでも自由に入出りできる環境を望む62%
- ②利用者同士で仲間づくりが出来る環境17%
- ③自治会・町内会等が主体となって運営する環境10%
- ④ボランティアによる計画的な運営7%
- ⑤利用者同士が主体となって運営する環境7%
- ⑥福祉施設が地域貢献として1%

□住み慣れた地域で困った時必要なこと

- ①見守り・声掛け（安否確認）30%
- ②災害時の手助け13%
- ③移動支援10%
- ④同行支援（買い物・通院）9%
- ⑤話し相手7%
- ⑥掃除（草取り）6%
- ⑦ゴミ出し等簡単な介助・介護5%
- ⑧定期的なふれあいサロン(居場所)・配食4%
- ⑨調理・簡単な修理2%
- ⑩墓の掃除・洗濯・趣味の援助1%

□地域に必要なこと

- ①ご近所の支え合い29%
- ②身近な人の見守りと助言体制18%
- ③コミュニティ組織体制の確立13%
- ④身近なところで「居場所」の開設9%
- ⑤相談体制や情報提供の充実8%
- ⑥地縁組織[自治会・町内会]等の積極的な歩み寄り7%
- ⑦市行政の地域への積極的な歩み寄り6%
- ⑧福祉人材の





シリーズ⑬ 若者発 ご近所福祉かるたで学ぶ

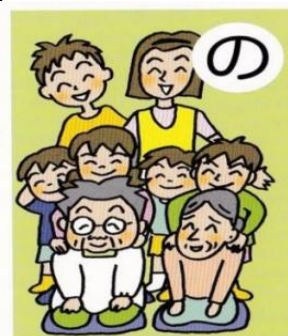
このコーナーでは、平成27年度・令和3年度・令和6年度に、協働団体：静岡福祉文化を考える会が、赤い羽根共同募金地域福祉広域助成事業により、世代を超えて身近な地域社会を学ぶ、地域福祉教育教材として作成した「若者発 ご近所福祉かるた」(本会活動参画)を本誌第57号から「シリーズ」で紹介。今回は「ね」「の」「絵札」は、漫画家 法月理栄様が作画。

*かるた等の問い合わせは、054-624-1924 平田まで



ね
 助け合い・思いやりの輪は、私たちの地域の隅々まで広げなければなりません。世代や領域を超えて、みんなで実践して、「地域の福祉力」を高めていきましょう。

助け合い・思いやりの輪は、私たちの地域の隅々まで広げなければなりません。世代や領域を超えて、みんなで実践して、「地域の福祉力」を高めていきましょう。



の
 住み慣れた地域で、思いやりやお互い様の気持ちを広げたいものです。みんなで「地域ぐるみの福祉教育」を心掛けていきましょう。

住み慣れた地域で、思いやりやお互い様の気持ちを広げたいものです。みんなで「地域ぐるみの福祉教育」を心掛けていきましょう。



*桜が散り、庭先にリンゴの花が開花！



*あちらこちらで「ふじの花」が見頃



*昨年より、一週間遅れでクンスランが咲き始めた

焼津福祉文化共創研究会事務局日誌拝見(4/16~5/25)

- 4/26 4月(第73回)定例研究会開催
- 4/30 4月(第73回)定例研究会議事録作成(プログアップ依頼)
「焼津福祉文化共創研究会通信第69号」作成作業
- 5/01 「焼津福祉文化共創研究会通信第69号」配布・メール送信作業
- 5/17 5月(第74回)定例研究会開催
- 5/24 焼津市V連絡協議会研修会参加(浜岡原子力発電所見学)
「協働団体：静岡福祉文化を考える会」第1回公開型研修会開催(静岡市清水区寄ってっ亭)



本会は、平成28年度から3年間、中学校区を中心に、地域の課題を学び合おうと、住民主体に「地域ささえあい講座」を開講し、延べ614名の地域住民が参加した。この学び合いの成果をもとに、継続的な話し合いの場をつくらうと、令和元年度に結成し7年目の活動に入った。身近な地域のことを一緒に語りませんか。

本会(「焼津福祉文化共創研究会」)への問い合わせは下記にお願いします。
 〒425-0041 焼津市石津3丁目10-8 焼津福祉文化共創研究会 平田 厚
 Tel&fax054-624-1924 090-4861-4547
 E-MAIL: monogusa-tomy@theia.ocn.ne.jp



焼津福祉文化共創研究会QRコード



協働団体：静岡福祉文化を考える会QRコード

Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

焼津福祉文化共創研究会通信 第70号

本会結成6か月後、福祉文化実践活動を「見える化・わかる化」する目的で毎月「通信」を発行して7年目、このたび70号を迎えた

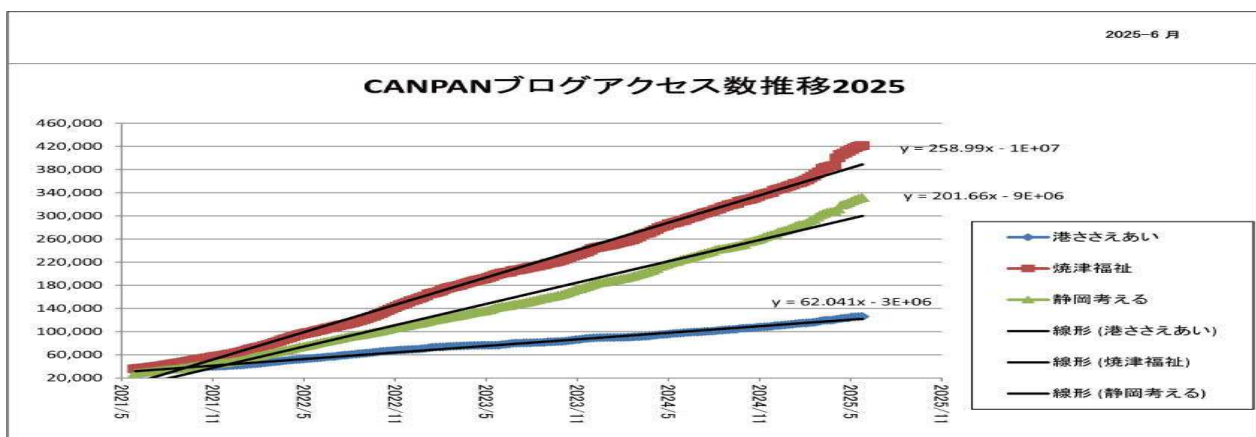
令和元年度4月に、地域の課題解決に向けて、市民の立場で、主体的にさまざまな地域活動に取り組む「志縁組織」として活動を始動6か月後の「9月定例研究会」において、「焼津福祉文化共創研究会通信発行企画書」に基づき「研究会通信」の発行を協議した。

本会の3つの活動基調（「専門性と市民性の融合」「公開型活動」「調査研究活動」）を基に活動するに当たり、広く地域住民に広報啓発し、活動を発信する目的で「研究会通信」を発行することにした。

内容（a 事業の取り組み状況、b 研究会論議の焦点、c 研究会経過記録・事務局日誌拝見、d 小話題、e 地域からの反響、f 会員の声等）、仕様の確認（A4版・原則両面2P、発行部数・当面50部）、配布先（会員14、焼津市V連23、関係機関・団体13）、発行回数（月1回程度）、経費（会費で賄う）で、ここに70号を迎えた。

発行当初から、「QRコード」の作成、「研究会通信」をはじめ、「定例会議事録」「各種研修会報告」等を「ブログアップ」をして、広く情報発信にも努めてきた。

身近な地域活動に関心を持つ住民の方々も多く、最近、ブログアクセス件数は増加傾向にある。現在の「研究会通信」の配布・配信状況は、「メール配信36件」「配布部数80部」



*上図は、赤線:研究会、黄緑線:協働団体:静岡福祉文化を考える会、青線:本会立ち上げの原点（港地域ささえあい講座）（現在、自治会広報誌アップ）のそれぞれの6月1日現在の「ブログアクセス件数」

2025年度活動テーマ:「ご近所福祉を検証する」

5月定例研究会での議論……それは、「もっと、地域を見える化する工夫」

5月17日に開催した5月定例会の「ご近所福祉を検証⑬」における意見交換では、世代を超えたご近所づきあいのあり方について意見を交わした。

*自治会・町内会長会議や町内会・組長会では、現在のコミュニティの現状（課題）を話し合う環境をつくり、会合の内容（概要）を、全ての会員一人一人に、理解できるように情報発信をして、共通認識できるように周知する工夫をしていきたい。

具体的には、「それぞれの組織は、いま、どのように動いているのか・・・」「町内会長会議や組長会の協議内容の概要を会員に伝える」「回覧板の廻し方を申し合わせる」「コミュニティ組織をしっかりと理解し合う運営を提案し、会員が積極的に参画できる地域行事の維持に努め、有効に会費を活用する工夫」など、一部役員の負担を感じる運営から、会員それぞれが役割分担を持ち、会員相互の交流の機会をつくる。

*ご近所に関心を持つ「語れる環境づくり」に努力する。

*中学生対象調査結果からも、若い世代の出番をつくり、楽しい世代間交流に努める。

こんなことが紹介されていました。「ご近所福祉活動…5つのメリット」

- ①ご近所には、“世話焼きさん”が活躍されている。 語れる環境だからこそ、地域の人脈でつながる。
- ②福祉問題が見えやすい。 語れる環境だから、「他人」から「他者」そして「他己」につながる。
- ③深刻になる前に対処できる。 語れる環境だから、地域力が十分に発揮できる。
- ④生活の中で、足元の要援護者に関われる。 語れる環境だからこそ、信頼関係が生まれる。
- ⑤緊急事態にも即応できる。 語れる環境だから、地域ぐるみの課題にも取り組める。



シリーズ⑭ 若者発 ご近所福祉かるたで学ぶ

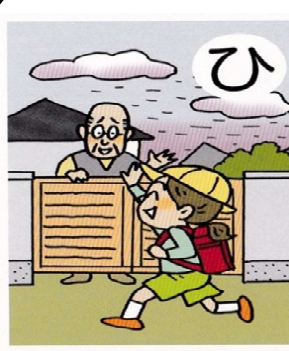
このコーナーでは、平成27年度・令和3年度・令和6年度に、協働団体：静岡福祉文化を考える会が、赤い羽根共同募金地域福祉広域助成事業により、世代を超えて身近な地域社会を学ぶ、地域福祉教育教材として作成した「若者発 ご近所福祉かるた」(本会活動参画)を本誌第57号から「シリーズ」で紹介。

今回は「は」「ひ」「絵札」は、漫画家 法月理栄様が作画。

*かるた等の問い合わせは、054-624-1924 平田まで



ボランティア活動を始めには一寸とした勇気が必要です。さあ、「はじめの一歩」、その勇気でボランティア活動が始まります。



子どもの安全・安心をいかに確保していくか、今社会全体の問題となっています。地域全体で「子どもの見守り・声かけ」を。

焼津福祉文化共創研究会事務局日誌拝見(5/17~6/14)

- 5/17 5月定例研究会において、協働団体:静岡福祉文化を考える会が、現在作成中の「30年誌」の「第9章」に、「本会との協働」を組み入れることを確認する
- 5/19 焼津市V連日帰り研修(6/28 菊川市災害救助犬訓練センター)参加申し込み(2名)
- 5/24 焼津市V連絡協議会研修会参加(浜岡原子力発電所見学)
「協働団体：静岡福祉文化を考える会」第1回公開型研修会開催(静岡市清水区寄ってっ亭)
- 5/27 5月定例研究会の議事録を作成し、ブログにアップする
- 6/1 「研究会通信第70号」編集作業
- 6/5 「研究会通信第70号」発行、関係機関・団体等にメール送信及び配布作業実施
- 6/14 6月定例研究会開催

本会は、平成28年度から3年間、中学校区を中心に、地域の課題を学び合おうと、住民主体に「地域ささえあい講座」を開講し、延べ614名の地域住民が参加した。この学び合いの成果をもとに、継続的な話し合いの場をつくらうと、令和元年度に結成し7年目の活動に入った。身近な地域のことを一緒に語りませんか。

本会(「焼津福祉文化共創研究会」)への問い合わせは下記をお願いします。

〒425-0041 焼津市石津3丁目10-8 焼津福祉文化共創研究会 平田 厚

Tel&fax054-624-1924 090-4861-4547

E-MAIL: monogusa-tomy@theia.ocn.ne.jp



焼津福祉文化共創研究会QRコード



協働団体：静岡福祉文化を考える会QRコード

Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

焼津福祉文化共創研究会通信 第71号

2025年度活動テーマ：地域活動実践事例からご近所福祉のあり方を探る
 “ご近所”を語り合うと、そこには「創る福祉」「参画する福祉」が浮かび
 上がる「6月定例研究会」では、世代を超えたご近所のつきあいを議論

本会の2025年度活動テーマは、「ご近所福祉を検証する」を掲げて、4月から、身近なご近所を語り
 合っている。本会は、3つの活動基調を基に、活動に取り組んでいる。

【焼津福祉文化共創研究会の3つの活動基調】

- (1) さまざまな分野で活動する人たちや福祉職に従事する人たちが、専門分野と世代
 を超えて交流を図る。
- (2) 会員だけが求心的・閉鎖的に集うのではなく、広く市民に開かれた活動をめざす。
- (3) 既存のコミュニティ・福祉組織の活動から取り残された問題や新しく発生してき
 た問題を大切に、つねに市民生活に密着した活動をめざす。

また、今年度の活動の着眼項目は次の5つを掲げ、「静岡福祉文化を考える会」と協働で取り組む。

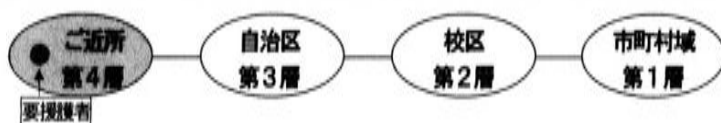
- ① 県内外の「地域実践活動事例」から、この6年間の「ご近所福祉の地域課題」を検証し、地域づ
 くりの議論を深める。困りごとを解決する支援及び地域資源を議論し合う。
- ② 「地縁組織と志縁組織」を探り、「協働」の意義を質す。
- ③ 会員をはじめ、地域活動に関心のある地域住民に呼びかけて、「語れる環境」醸成に努める。
- ④ 「教育とコミュニティ」「教育と福祉」「理論と実践」「専門性と市民性」の『融合』を質す。
- ⑤ 地域福祉教育教材の「若者発 ご近所福祉かるた」の活用方法の開拓とご近所福祉の推進に努める。

6月14日に開催した6月定例会は、ゲストを迎えて、「ご近所福祉を検証⑭—世代を超えたご近所づき
 あいのあり方—」について意見を交わした。

- ・最近の地域の動きの中で、この10年間で、コロナ禍を含め、集まる機会が極めて少なくなった。
 そのために、管内の住民との挨拶や会話を交わす機会がなくなっている。
- ・これまで地域によっては、慣例に従って、「寄合」の機会
 を持ってきたが、こうした環境も失われつつある。
- ・現在、環境整備作業として、区画整理後の大きな作業として、側溝掃除作業は計画的にかつ行政等との連携により取
 り組む課題がある。超高齢社会のいま、それぞれの状況を
 理解しながら、みんなで地域行事に取り組み、つながる地
 域づくりを心がけたい。
- ・こうした状況を踏まえて、「意図的に集まる仕組み」を作れ
 るように心がけたい。
- ・区画整理事業により、「集合住宅」も増えてきている。
 全ての世帯が、参画出来るコミュニティ規範に心掛けたい。



●ご近所から始まる福祉、ここが重要な課題解決の第一歩



- 地域福祉は「ご近所福祉」から始まる。ご近所をつなぐ努力
- ご近所は、常に地域リーダー（コミュニティ役員等）と連携を持つ
- ご近所で解決できない問題は、上層部に働きかける



今年もしっかりと願い事を短冊に！

6月とはいえ、猛暑続きの今日この頃。庭先には、「グロリオサ」「カラー」「ユリ」等が、鮮やかな色合いで住民を癒してくれているように開花している。専門家は、「人間を取り巻く4つの環境」に「人的環境(語れる環境)」「物的環境(住民同士が集う環境)」「空間的環境(ホッとする空間)」「自然的環境(和む環境)」を掲げている



シリーズ⑮ 若者発 ご近所福祉かるたで学ぶ



このコーナーでは、平成27年度・令和3年度・令和6年度に、協働団体：静岡福祉文化を考える会が、赤い羽根共同募金地域福祉広域助成事業により、世代を超えて身近な地域社会を学ぶ、地域福祉教育教材として作成した「若者発 ご近所福祉かるた」(本会活動参画)を本誌第57号から「シリーズ」で紹介。

今回は「ふ」「へ」「絵札」は、漫画家 法月理栄様が作画。

*かるた等の問い合わせは、054-624-1924 平田まで



ふ
ふれあいの濃さは、時間の長さではありません。「さりげない日常会話(家庭機能)」で「家庭力」を大いに向上させましょう。

ふれあいの濃さは、時間の長さではありません。「さりげない日常会話(家庭機能)」で「家庭力」を大いに向上させましょう。



へ
返事にも感謝の気持ち
付け加え

「ハイ」という返事だけでは、相手にすべてが伝わりません。思いやりの気持ちも添えて、「常に、感謝の心」を忘れないようにしましょう。

焼津福祉文化共創研究会事務局日誌拝見(6/14~7/2) ※予定含

- 6/14 6月(第75回)定例研究会開催
協働団体:静岡福祉文化を考える会が、現在作成中の「30年誌」に、新たに「第9章 焼津福祉文化共創研究会との協働」を設けることを確認し、内容を検討する
- 6/16 6月(第75回)定例研究会議事録作成、ブログアップ依頼
- 6/17 菊川市会議において、本会及び考える会の活動状況報告(調査考察・かるた反響)
- 6/28 焼津市V連研修旅行(菊川市救助犬訓練センター)に2名参加
- 6/30 考える会30年誌執筆作成継続作業(残り第8章加工中)、「第9章」の意見確認する
- 7/02 「若者発ご近所福祉かるた」関連連絡調整実施
- 7/12 焼津市内の居場所関係者に「若者発ご近所福祉かるた」を貸出する。
- 7/19 7月(第76回)定例研究会開催

本会は、平成28年度から3年間、中学校区を中心に、地域の課題を学びおおうと、住民主体に「地域ささえあい講座」を開講し、延べ614名の地域住民が参加した。この学び合いの成果をもとに、継続的な話し合いの場をつくらうと、令和元年度に結成し7年目の活動に入った。身近な地域のことを一緒に語りませんか。本会(「焼津福祉文化共創研究会」)への問い合わせは下記にお願いします。

〒425-0041 焼津市石津3丁目10-8 焼津福祉文化共創研究会 平田 厚
Tel&fax054-624-1924 090-4861-4547
E-MAIL: monogusa-tomy@theia.ocn.ne.jp



焼津福祉文化共創研究会QRコード



協働団体：静岡福祉文化を考える会QRコード

Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

焼津福祉文化共創研究会通信 第72号

7月定例研究会の議論「町内会」を支え合う仕組みにするには

「ご近所福祉」を語り合う中で、「町内会」の運営について、議論を深めることが多い。県内外の実践事例から、本会のこれまでの6年間の活動を振り返りながら、定例研究会を継続している。7月の議論では、「町内会」の仕組の現状について意見を交した。いろいろな人がいて当たり前な町内会、その町内会の仕組を「それぞれが思いやりを出し合い、支え合う」努力してくことを確認し合った。



「福祉委員会」をつくれればいいというものではない 町内会を「助け合える組織」に

町内会に福祉部を設けたり、町内会を軸に福祉委員会を設置する地区が増えているが、うまく機能している所はあまりない。組織は簡単につくれる。そこで友愛訪問(見守り)や食事サービスやふれあいイベント程度ならできるが、本格的な助け合いまで仕掛けることができているかは疑問だ。

小地域や町内会単位では(近隣はなおさらだが)住民の流儀でいかないと機能しない。下に、町内会のできる活動を並べてあるが、「私もその問題を抱えているから一緒にやらない?」と「当事者づら」で呼びかけた方がいい。それに「社会的な」活動にせず、個人が言い出し、仲間を呼び集め、個人的な場所で個人的にやるといふ感じにすべきだ。



平成21年度 静岡県委託事業「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業(高齢者孤立ゼロ対策事業)」で、県内唯一「小川第11自治会」が「ご近所福祉事業」に取り組み【浪蔵劇団】誕生・・・あれから、16年、なんと430回公演が実現した

「浪蔵劇団」が、7月13日(日)に、小川地域交流センターで、第430回の公演が実現した。こうした尊い活動には原点がある。

今から16年前、静岡県委託事業「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業」(高齢者の孤立死・孤独死防止事業)を、本会の「協働団体:静岡福祉文化を考える会」が、7年間受託した取り組みの2年目(平成21年度)に、「実践モデル事業地区」として、県内4か所のうちの一か所を、直接自治会にお願いして「小川第11自治会」に引き受けていただいた。7年間で、「実践モデル事業地区」は、ほとんど市町社会福祉協議会等に相談をして、承諾をいただくこととして進めていたが、当時、ご縁のあった小川第11自治会顧問の山口浪男氏に直接本事業について相談し、当時の自治会長の了解を取りつけていただき、事業を受け入れていただいた。本事業が単なる机上論で終ることなく、それぞれの地域性をもとに、検証することを事業計画に位置付け、県内の各市町に「モデル実践地区」をお願いした。2政令市を除くと、33市町(21市12町)のうち、14市(全体の67%)5町(42%)19市町(58%)



*平成21年度に、小川公民館にて、「ご近所福祉 IN 小川」が盛大に開催された

に及び。ほとんど、市町社会福祉協議会関連の地区が取り組まれて中で、唯一、焼津市小川第11自治会は、自治会独自の取り組みをして頂いた。地域社会では、「福祉」は他人事の認識が強く、特別な領域、難しい領域としか受け止められない状況にある中で、福祉を見える化・わかる化し、共感とともに感動を与える地域福祉教育の学びの場として、地域の課題を自治会役員等が演技をし「市民劇団」を立ち上げられた。それから16年が経過し、山口浪男さんは、92歳を生き生きと演じていた。感謝である。



シリーズ⑬ 若者発 ご近所福祉かるたで学ぶ

このコーナーでは、平成27年度・令和3年度・令和6年度に、協働団体：静岡福祉文化を考える会が、赤い羽根共同募金地域福祉広域助成事業により、世代を超えて身近な地域社会を学ぶ、地域福祉教育教材として

作成した「若者発 ご近所福祉かるた」(本会活動参画)を本誌第57号から「シリーズ」で紹介。

今回は「ほ」「ま」「絵札」は漫画家 法月理栄様が作画。*かるた等の問い合わせは、054-624-1924 平田まで



ほ
近所の子にも
声を掛け
ほめ言葉

我が子だけでなく近所の子達も見守りたいものです。近所の子にも声を掛けて「地域の子どもは地域で育む福祉力」向上を目指しましょう。



ま
窓開けて
道行く人にも
ご挨拶

長生きは閉じこもらず身も心も外へと向けていくことが大切です。自ら進んで「コミュニケーション力」UPを。

焼津福祉文化共創研究会事務局日誌拝見(7/13~8/23)

※予定含む

- 7/13 小川地域交流センターにおいて、「浪蔵劇団430回公演」開催
- 7/19 7月(第76回)定例研究会開催
- 7/21 7月(第76回)定例研究会議事録作成しブログアップ作業実施
- 7/30 静岡新聞に「浪蔵笑劇団430回公演」掲載あり
- 8/04 協働団体：静岡福祉文化を考える会「30年誌」計画に基づくデータ入力作業終わる
- 8/06 焼津福祉文化共創研究会通信第72号発行
- 8/23 8月(第77回)定例研究会開催 焼津市V連代表者会開催



本会は、平成28年度から3年間、中学校区を中心に、地域の課題を学び合おうと、住民主体に「地域ささえあい講座」を開講し、延べ614名の地域住民が参加した。この学び合いの成果をもとに、継続的な話し合いの場をつくろうと、令和元年度に結成し、7年目の活動を展開中 身近な地域のことを一緒に語りませんか。

本会(「焼津福祉文化共創研究会」)への問い合わせは下記にお願いします。
〒425-0041 焼津市石津3丁目10-8 焼津福祉文化共創研究会 平田 厚
Tel&fax054-624-1924 090-4861-4547
E-MAIL: monogusa-tomy@theia.ocn.ne.jp



焼津福祉文化共創研究会QRコード



協働団体：静岡福祉文化を考える会QRコード

Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

焼津福祉文化共創研究会通信 第73号

本会7年の歩みを「協働団体・静岡福祉文化を考える会30年誌」に綴る

「協働団体:静岡福祉文化を考える会」は、今年度30年の節目を迎えた。2年前から、「30年誌」作成の準備を始め、昨年度後半から執筆入力作業に取り掛かり、現在、最終校正作業に入っている。焼津福祉文化共創研究会は、完成に向けて、全面的に協力をしている。「静岡発 福祉文化の創造軌跡30年 草創期からご近所福祉検証期を辿る」(本文264P)をタイトルに内容は下記の通り。

この中で「第9章 焼津福祉文化共創研究会との協働による7年の歩み」が綴られている。

静岡発 福祉文化の創造軌跡30年 草創期からご近所福祉検証期を辿る
目次

はじめに	本会の原点「静岡発 福祉文化の創造」30年を視る
第1章	「静岡発 福祉文化の創造」の原点を辿る
第2章	県内各地で学んだ「現場セミナー」から福祉文化を発信
第3章	協働で取り組んだ「第13回日本福祉文化学会全国大会 IN 静岡」
第4章	静岡県委託事業「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業」7年間
第5章	高齢者からの学びで浮き彫りになった「ご近所福祉」
第6章	「ご近所福祉こそ福祉文化」を切り拓く
第7章	機関誌「OUR LIFE」から「静岡発 福祉文化の創造」を視る
第8章	30年間の「調査研究活動」で福祉文化を発信
第9章	「焼津福祉文化共創研究会」との協働による7年の歩み
展望	更なる「静岡発 福祉文化の創造」これからの課題を探る
資料編	1 静岡福祉文化を考える会30年の歩み 2 令和7年度 静岡福祉文化を考える会活動計画 3 静岡福祉文化を考える会規約

本会関連の「第9章 焼津福祉文化共創研究会との協働による7年の歩み」内容の概要を掲載する。

1 焼津福祉文化共創研究会の原点

住民主体に、港公民館(現港地域交流センター)で、「焼津市港地域ささえあい講座」を3年間開講し講座に関わった有志により、令和元年4月「焼津福祉文化共創研究会」を結成。「焼津福祉文化共創研究会」は、年間計画に基づき、「静岡福祉文化を考える会」と協働で、ここまで活動を展開してきた。

- 目的 本会は、さまざまな福祉・ボランティア活動に携わる人と市民がいっしょに、地域が抱える生活全般の諸問題を考え、その改善・解決に向けて努力をする。
- 活動基調 (1)さまざまな分野で活動する人が、専門分野と世代を超えて交流を図る。
*「市民性と専門性」「理論と実践」「教育と福祉」を『融合』する努力
- (2)会員だけが求心的・閉鎖的に集うのではなく、広く市民に拓かれた活動をする。
*「地域総合型研修会」「公開型研修会」で市民性を高める努力
- (3)既存のコミュニティ・福祉組織活動から取り残された問題や新しく発生した問題を大切に、常に市民生活に密着した活動をする。
*「調査研究活動」を重視し、地域課題を掘り起し考察等を地域社会に提言する。

ここまで、「焼津福祉文化共創研究会」7年間の活動は、「集める」ではなく「集まる」を基本にして、年度の活動テーマをもとに、活動の拠点・活動財源を確保し、管内の地域住民に情報発信に努めた。

2 静岡福祉文化を考える会との協働活動の成果

- 1年目(2019年度) *初年度は、研究会独自で身近な福祉課題として「居場所」検証
活動テーマ【港地域の“ご近所”を切り拓く 集まる居場所で地域ぐるみのささえあいを検証する】
「静岡県コミュニティづくり推進協議会・コミュニティ活動集団助成事業」及び「赤い羽根共同募金助成

事業」により、約5,000世帯で構成されている「港地域づくり推進会」(港第14・23自治会)管内で、今日まで、気兼ねなく集まり会話を交わし、ふれあい交流し普段の拠り所としている「居場所的機能」を持つ55の既存の各種団体・グループを把握。「集める居場所から集まる居場所」を課題提起した。



■2年目(2020年度) *「静岡福祉文化を考える会」と協働で調査研究に取り組む

活動テーマ【港地域のご近所を切り拓くパート2ー協働による地域課題解決を探る】
「静岡県コミュニティづくり推進協議会・コミュニティ活動集団助成事業(2年目)」と「赤い羽根共同募金助成事業」により、「ご近所福祉その意識と実態調査」に取り組み、地域で顔の見える“近助”の関係づくりができる「協働の地域づくり」を働きかけた。



*管内町内会の公会堂を会場に定例研究会開催
*厳しいコロナ禍下、37名の参加でご近所の現状を学び合う



*調査報告研修会ポスター作成し。広報啓発に努める。

■3年目(2021年度) *「静岡福祉文化を考える会」と協働で調査研究に取り組む

活動テーマ【港地域をつなぐ・ささえあう“ご近所福祉”を創る】

赤い羽根共同募金助成事業」により、子どもを対象に管内関係団体・学校関係者の協力により「福祉ってなに? 244名の子どもたちにききました調査」に取り組み、尊い子どもたちからの意見を大人社会への提言としてまとめた。



*登校する子供たちからアンケートを回収

*回収したアンケートの集計作業

*コロナのため延期して報告会開催

焼津福祉文化共創研究会

■4年目(2022年度) *「静岡福祉文化を考える会」と協働で調査研究に取り組む

活動テーマ【わかる・見える実践活動で“福祉文化としてのご近所福祉”を探る】

「公益財団法人さわやか福祉財団助成事業」により、長引く厳しいコロナ禍の中で、「高齢者」を取り巻く地域環境を危惧し、「地域共生社会を拓く～ホッとさせる地域づくりは誰が担うか～」を掲げて、「ホッとさせる安心した地域づくりその意識と実態調査」に取り組み、管内の315名の高齢者から尊い意見をいただき、地域社会に向けて「ホッとさせる地域づくり」を問題提起した。「赤い羽根共同募金助成事業」で、「みんなで創る福祉を学ぶ講座」を開講。昨年度実施した児童対象調査結果を基に「子どもたちから大人社会への提言」を改めて地域住民と共有する学習の機会を持った。



「静岡福祉文化を考える会」と協働で「地域共生社会調査研究部会」を設置、地域共生社会の仕組みを検証した。



前年度の活動報告を「みんなで創る福祉講座」のプログラムに組み入れ、静岡福祉文化を考える会役員2名をゲストに迎えて開催。その後、「みんなで創る福祉講座報告書」を作成し、管内関係方面に配布をした。

■5年目(2023年度) *「静岡福祉文化を考える会」と協働で調査研究に取り組む

活動テーマ【港地域のニーズ把握から“福祉文化として港地域のご近所を描く”】

地域コミュニティの希薄化、家庭・家族機能やご近所福祉が多様化するとともに、加えて厳しいコロナ禍下において、若者との日常的な交流環境には至っていない。管内の中学生対象に、身近な地域に対する意識と実態を把握し、世代間交流できる地域社会づくりに、若者の地域参加の必要性を呼びかけ、地域社会の活性化と、地域づくりの再構築を検証する目的で、「赤い羽根共同募金助成事業」により、「私にとって“ご近所”とは、中学生の意識と実態調査」を実施した。協働団体の「静岡福祉文化を考える会」とともに、「共創社会実現研究会」を設置(10回開催)し研究協議を重ねた。管内2つの中学校(小川・港中学校)をはじめ、小川地区及び港地区のコミュニティ推進組織、焼津市民生委員児童委員協議会、さわやかクラブ連合会やいづ等の協力で、中学生からの意見をまとめ、「若者が参画できる地域づくりに向けた大人社会への提言」としてまとめ地域社会に働きかけた。



「調査結果報告研修会」には、学校教育関係者等30名が参加した。

■6年目(2024年度) * 「静岡福祉文化を考える会」と協働で調査研究に取り組む
活動テーマ【活動5年間の調査研究事業実績から、“ご近所福祉”を検証する】

5年間の活動から浮き彫りにした検証事項「地域ぐるみの居場所」「ご近所の支え合い」「子どもを取り巻く地域」「高齢者を取り巻く地域」「中学生のご近所の意識と実態」を改めて振り返りながら、ホッとする「ご近所福祉」について、会員の身近なご近所の現状をもとに研究協議をした。



併せて、協働団体静岡福祉文化を考える会とともに、「共創社会実現研究会」を設置(全8回)し、地域福祉教育教材として作成し10年間、「若者発 ご近所福祉かるた」を配布提供してきた、関係団体・地域実践者・居場所設置地域等に「活用状況調査」を実施し、実践的体験的学びの内容を、「若者発 ご近所福祉活用事例集」にまとめ、広く県内各領域に配布提供した。

■7年目(2025年度) * 「静岡福祉文化を考える会」と協働でご近所福祉を検証
活動テーマ【地域活動実践事例から、これからのご近所福祉のあり方を探る】

活動7年間のプロセスと原点を質す。特に、「地域ぐるみの居場所」「ご近所の支え合い」「子どもを取り巻く地域」「高齢者を取り巻く地域」「中学生のご近所の意識と実態」を更に振り返り、ホッとする「ご近所福祉」を、会員の身近なご近所の現状をもとに研究協議を継続。着眼項目として、

- (1) 管内外の「地域実践活動事例」をもとに、“ご近所福祉”を検証し、この7年間の「ご近所福祉の地域課題」を整理し、これからの地域づくりについて議論を深める。困りごとを解決する支援及び地域資源を議論し合う。
- (2) 「地縁組織と志縁組織」を探り、「協働」の意義を質す。
- (3) 会員や、地域活動に関心のある方々に呼びかけ、「語れる環境」「地域総合型学習」の醸成に努める。
- (4) 「教育とコミュニティ」「教育と福祉」「理論と実践」「専門性と市民性」の『融合』を質す。
- (5) 「若者発ご近所福祉かるた」を地域福祉教育教材に、ご近所福祉の推進の活用方法の開拓に努める。

3 中学校区における「焼津福祉文化共創研究会」の福祉文化実践活動の手応え

住民主体による福祉文化実践活動については、その活動の必要性とともに、問題意識がないとなかなか形にはなり得ない難しさがある。総論賛成であっても、各論・具体的なことになると消極的になる地域環境にあっては、常に、地域の現状を「見える化」「わかる化」する努力が求められる。

地域が抱えている福祉課題はなにか、その課題を誰が解決につなげていくのかを、限られた関係者による問題ではなく、地域住民全体の問題として、あらゆる機会を通じて、マスコミ各社に常に情報提供をするように心掛けてきた。協働団体：焼津福祉文化共創研究会が立ち上がるきっかけとなった「焼津市港地域ささえあい講座」へのマスコミの関心は高く、広く、管内各地域に啓発広報することが出来た。

まちじゅうアート展

静岡県内の障がいのある方によるアート作品を展示します。
独創的でユニークな発想と素晴らしい表現力が発揮された

入場無料

静岡市民ギャラリー(静岡市役所静岡庁舎内)において、8月23日(土)から8月31日(日)まで、静岡市主催による「まちじゅうアート展」(36作品出展)が開催されました。本会会員原崎幸子さんの長女・原崎真由美さんの作品が3点出展されました。



*主催者の「原崎真由美さん」紹介文より：1980年生まれ。ダウン症で生まれた彼女は、幼い頃から創作意欲が豊かで、保護者をはじめ地域の方々から愛情ある環境でその感性を育んできました。絵画制作においては、静岡市の美術アトリエに通って、表現の世界を広げてきた経緯があり、過去に個展開催経験を持つ程の実力者でもあります。キャンパスや紙に水彩や油絵の具等で描く彼女独特の色彩豊かでダイナミックなタッチが魅力です。現在は、週3回の人工透析に通いながらも、小さな絵手紙やビーズ制作、切り絵等の作品を、楽しみながら創作しています。



シリーズ⑰ 若者発 ご近所福祉かるたで学ぶ

このコーナーでは、平成27年度・令和3年度・令和6年度に、協働団体：静岡福祉文化を考える会が、赤い羽根共同募金地域福祉広域助成事業により、世代を超えて身近な地域社会を学ぶ、地域福祉教育教材として作成した「若者発 ご近所福祉かるた」(本会活動参画)を本誌第57号から「シリーズ」で紹介。今回は「み」「む」「絵札」は漫画家 法月理栄様が作画。*かるた等の問い合わせは、054-624-1924 平田まで



いろいろな人が暮らし合って当たり前のご近所。一声かけて安心し合える地域づくりを日頃のお付き合いの中から作り出す努力をしましょう。



相手からの挨拶を待つことなく、こちらからさりげない言葉掛けは微笑ましいものです。「声かけ」は私たちから…。

焼津福祉文化共創研究会事務局日誌拝見(8/23~9/20)

※予定含む

- 8/23 8月(第77回)定例研究会開催 焼津市V連代表者会開催
- 8/23 協働団体：静岡福祉文化を考える会「30年誌」校正作業(～11/30)
- 9/05 焼津福祉文化共創研究会通信第73号(9月号)発行
- 9/15 9月(第78回)定例研究会資料事前配布作業
- 9/18 焼津市V連 10/4 研修会参加申し込み(2名)
- 9/20 9月(第78回)定例研究会開催



猛暑に咲くポーチュリカ

本会は、平成28年度から3年間、中学校区を中心に、地域の課題を学び合おうと、住民主体に「地域ささえあい講座」を開講し、延べ614名の地域住民が参加した。この学び合いの成果をもとに、継続的な話し合いの場をつくらせ、令和元年度に結成し、7年目の活動を展開中。身近な地域のことを一緒に語りませんか。本会(「焼津福祉文化共創研究会」)への問い合わせは下記にお願いします。
〒425-0041 焼津市石津3丁目10-8 焼津福祉文化共創研究会 平田 厚
TEL&fax054-624-1924 090-4861-4547
E-MAIL: monogusa-tomy@theia.ocn.ne.jp



焼津福祉文化共創



協働団体：静岡福祉文化を

Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

焼津福祉文化共創研究会通信 第74号

2025年度の活動テーマ「地域活動実践事例から、これからのご近所福祉のあり方を探る」を基に、10月に入り、活動は折り返しの時期を迎えた

本会は、「3つ活動基調」(1)さまざまな分野で活動する人たちや福祉職に従事する人たちが、専門分野と世代を超えて交流を図る(2) 会員だけが求心的・閉鎖的に集うのではなく、広く市民に開かれた活動をめざす(3) 既存のコミュニティ・福祉組織の活動から取り残された問題や新しく発生してきた問題を大切に、つねに市民生活に密着した活動をめざすを掲げ、2025年度の活動は、いよいよ折り返しの時期を迎えた。

今年度は、下記の「5つの活動の着眼項目」をあげて取り組んでいる。

- ① これまで公表されてきた、県内外の「地域実践活動事例」をもとに、“ご近所福祉”を検証しつつ、この6年間の本会の活動の「ご近所福祉の課題」を整理し、これからの地域づくりについて議論を深める。困りごとを解決する支援及び地域資源を議論し合う。

→この6年間に取り組んだ「2つの調査研究活動」から、9月の定例研究会では、「私が困った時、地域にどのような支援があればよいか」を検証した。

A 2020年度(令和2年度)20歳以上対象調査 「ご近所福祉その意識と実態調査」

B 2022年度(令和4年度)65歳以上対象調査「ホッとする、安心した地域づくりその意識と実態調査」

のAB2つの調査において、設問した「今後、地域においてこまった状態の時、在宅生活を維持していくために、必要と思われる支援・サービスについて」調査結果をもとに意見交換をした。

回 答 内 容	A 2020年度 (令和2年度)	B 2022年 (令和4年度)
見守り・声掛け(安否確認)	29%	30%
移動支援	9%	10%
同行(買い物・通院)支援	8%	9%
配食	5%	4%
子育て支援	6%	0%
ゴミ出し	4%	5%
調理	0%	2%
災害時の手助け	18%	13%
話し相手	7%	7%
趣味・特技の援助	1%	1%
簡単な介護・介助	7%	5%
洗濯	0%	1%
小動物の世話	1%	0%
お墓の掃除	0%	1%
簡単な修理	3%	2%
その他	0%	1%
定期的なふれあいサロン	2%	4%
掃除(草取り)	0%	5%

* 20歳以上対象とした調査結果(A)と、65歳以上対象とした調査結果(B)と比較をすると必要と思われる支援・サービスの回答の多い順にあげると、① 見守り・声掛け(安否確認) ② 災害時の手助け ③ 移動支援 ④同行(買い物・通院)支援と、回答は同じである。

* 65歳以上対象とした調査結果では、そのほかに回答の多い順にあげると、「話し相手」「ゴミ出し」「簡単な介護・介助」「掃除(草取り)」「定期的なふれあいサロン」「配食」「調理」「簡単な修理」等があげられている。

* 今日、各地域において、どのような支援が出来るか、いろいろと話し合う中で、地域社会において実践活動として取り組まれている「居場所」「移動支援」「買い物支援」は、本会が実施した調査研

究活動からも、同じような内容が浮き彫りになったが、調査結果からは、「居場所・サロン」の回答は意外と少なかった。その代わりに、「話し相手」の回答があったことを踏まえると、意図的な取組よりも、日常的な生活の中で、気兼ねなく、語れる環境が求められているようにも受け止められる。回答の一番多かった「見守り・声掛け(安否確認)」も、意図的な見守りから、さりげない見守りによって、普段の暮らしの中につながる人間関係が生まれてくるようにも感じる。

これまでの活動を振り返りながら、「9月定例会」では、地域の実践事例を学びながら、参加した会員同士が、当事者的立場にたち、「ゴミ出し」「移動」の2項目を、個々のニーズを支援が可能な小地域を想定して、どのように解決・改善できるか、思い思いに語り合った。出た意見を要約してみると、

困りごと(内容)	対象者の状況	自助	共助	公助
ゴミ出し	一人暮らし高齢者 (移動やや困難)	<ul style="list-style-type: none"> 自宅前に準備をしておく 日々分別をしておく 	<ul style="list-style-type: none"> ご近所同士で見守りしながら支援 中学生等の通学時のV活動 ご近所の人の移動時に運搬(軽トラ) 	<ul style="list-style-type: none"> 介護認定等による支援範囲
移動(通院・買い物)	高齢者(高齢世帯) 免許証返納者	<ul style="list-style-type: none"> 家族・親族にあらかじめ予定を伝え考慮してもらう 遠出が難しくなったら、自転車使用 健康維持を兼ねて歩行可能であれば目的を決めて行動 	<ul style="list-style-type: none"> 管内の福祉活動事業として運行事業化 	<ul style="list-style-type: none"> 自主運行バス 介護タクシー券 福祉有償運送サービス

引き続き、10月定例研究会では、対象者別に、さまざまな生活ニーズ(電球の交換・一緒に体操をする樹木の剪定や花壇の手入れ・話し相手・役所提出書類アドバイス・部屋の模様替えや家具などの思い物の移動・お墓の掃除・趣味特技補助・買い物の送迎及び同行・旅行の付き添い・健康上の相談・食事介助・ペットの世話等)を、どのように「自助」「共助」「公助」を基に支援できるかを意見交換する。



- ② 「地縁組織」と「志縁組織」を探り、「協働」の意義を質す。
 - ➡本会結成以来、毎月「研究会通信」を発行し、今日までに74回発行。1か月ごとの活動状況や、定例会の協議内容をまとめ、紙媒体で約100部発行し、管内自治会役員、地域交流センター、学校、社会教育施設、焼津市行政各部署、焼津市V連絡協議会加盟団体、地域実践者、静岡県関係団体、これまで支援をいただいた助成地域実践者等に配布。メール送信による情報提供も努力している。
- ③ 会員や、地域活動に関心のある地域住民に呼びかけて、「語れる環境」「地域総合型学習」の醸成に努める。
 - ➡今年度は、本会独自の研修会等の企画はない。管内の関係者に、毎月の定例会の開催を連絡し、意見交換できる環境を維持するとともに、協働団体「静岡福祉文化を考える会」の研修会や、関連団体、焼津市V連絡協議会の研修会や代表者会等に積極的に参加し、活動の共有に努めている。
- ④ 「教育とコミュニティ」「教育と福祉」「理論と実践」「専門性と市民性」の『融合』を質す。
 - ➡本会が発行している「焼津福祉文化共創研究会通信」は、当初、会員中心の情報の共有を目的として発行した。この6年間の活動では、尊い市民からの赤い羽根共同募金の助成事業により、各種調査研究活動を協働団体「静岡福祉文化を考える会」とともに管内の地域課題を中心に取組み、その結果を「報告書」にまとめ、関係法面に配布するとともに、「調査報告研修会」を開催し、これからの地域づくりを確認し合ってきた。こうした活動のプロセスにおいて、管内の小学校・中学校や社会教育施設(焼津青少

年の家)に、地域活動の現状を理解していただく目的で「通信」提供の提案があり配布をすることにした。コミュニティ活動の拠点でもある「地域交流センター」及びコミュニティ活動推進者に、活動の情報提供にも努めている。

⑤ 地域福祉教育教材「若者発 ご近所福祉かるた」を、ご近所福祉の推進に活用の呼びかけをし、更なるかるたの活用方法の開拓に努める。

→本会は、「ご近所福祉」を検証する活動として、「1年目：地域ぐるみの居場所検証」「2年目：ご近所福祉 その意識と実態調査検証」「3年目：児童の福祉意識検証」「4年目：高齢者福祉意識検証」「5年目：中学生ご近所意識検証」「6年目：ご近所福祉総検証」と、これまで、あらゆる角度から「ご近所福祉」を活動に組み入れてきた。特に、今年度は、困りごとを解決する支援方法や地域資源を研究協議に取り組んでいる。こうした展開において、本会は、様々な形で令和元年度から、協働団体：静岡福祉文化を考える会が企画制作した「若者発 ご近所福祉かるた」を、この10年間、県内の福祉施設・グループ・団体、地域実践者に配布提供してきたので、その「活用状況」を調査した結果をもとに、各領域における活用方法をまとめた「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」の作成に参画した。「かるた」は、管内の小学校・中学校、2つの地域交流センター、地域実践者等に配布提供している。「ご近所の支え合い」を学ぶ地域福祉教育教材として、広く活用できるように、日常的に働きかけている。



シリーズ①「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」紹介コーナー

協働団体：静岡福祉文化を考える会とともに、令和6年度に、赤い羽根共同募金助成事業により、これまで、各地のかるたの活用状況を調査し、その結果を基に、このたび、漫画家 法月理栄様の多大なご支援(イラスト作画)をいただき、「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」を作成した。今月号(第74号)から、シリーズで紹介する。

第1回は「家庭・家族：高齢者自身の学習」

高齢者自身の、これまでのご近所を振り返りながら、かるたの「読み札」を、用意した「ご近所福祉かるたノート」に毎日書き綴りながら、これからの世代に託したい思いを記録する。

■進め方

- * 「若者発 ご近所福祉かるた」の誕生の由来等を理解し、「かるた」を保有している、近隣の各種団体・福祉施設・地域実践者等で、貸出の手続きをして学習する。
- * 身近なご近所へのこれまでの関わりを振り返る。
- * 用意した「ご近所福祉かるたノート」に、毎日、少しずつ「読み札」を書き取る。
- * 書き綴った「読み札」の隣の行に、ご近所の様子やこれからのご近所への思いを書き綴る。
- * 書き綴った「ご近所福祉かるたノート」を「日記」として保管して、振り返りをする。

■楽しさの工夫

- * ご近所に住んで〇年、ご近所さんと日頃の挨拶や会話などを通じて、どこまでお付き合いが出来ているか、「ご近所福祉かるたノート」に書き留めた内容を振り返りながら、明日へのつなぎをしていくことで張合いが持てる。
- * 時々、「若者発 ご近所福祉かるた」の「読み札」を大きな用紙に書き写しながら、生活に変化をもたせ、日々、継続し励みをもたせる。

■留意点

- * 現在の生活で、不安を感じていることはないか、誰に相談することが出来るか、元気なうちに、「ご近所福祉かるたノート」にいっしょに書き留めておくこと心強い。生活上の情報も、ご近所から常に届くように、日頃からご近所さんとの会話を心掛けていく。地域行事には、出来る限り参加し、「ご近所福祉かるたノート」に書き留めて、検証していくことも心掛けたい。



* 9月に入っても連日の猛暑続き。マスコミは、もう四季感は無くなり、二季環境になるとも報じられている中で、近所の川添を歩いていたら、なんと「曼殊沙華」が見事に咲きほこっていた。「暑さ寒さも彼岸まで」をようやく、ここにきて一瞬体感した出来事であった。地域の活動が、これまでと同様に、季節感を感じながら「みんなの居場所、地域ぐるみの居場所」として維持されることを期待したい。

コミュニティ活動を「見える化」「わかる化」する努力をして、コミュニティ活動の意義を日々の生活の中で理解し合い、組織に参加している世帯(会員)が日常的に、語れる環境、つながる環境、支え合う環境の維持に心掛けていきたい。



シリーズ⑱ 若者発 ご近所福祉かるたで学ぶ



このコーナーでは、平成27年度・令和3年度・令和6年度に、協働団体：静岡福祉文化を考える会が、赤い羽根共同募金地域福祉広域助成事業により、世代を超えて身近な地域社会を学ぶ、地域福祉教育教材として作成した「若者発 ご近所福祉かるた」(本会活動参画)を本誌第57号から「シリーズ」で紹介。

今回は「め」「も」「絵札」は漫画家 法月理栄様が作画。*かるた等の問い合わせは、054-624-1924 平田まで



「目は口ほどにものを言う」と言われます。「ふれあい」は優しい目から、心から「アイコンタクト」。



私たちの地域社会には、様々な地域課題があります。その「課題発見」から発想や視点を変えることで解決につながります。「地域把握」でピンチをチャンスに。

焼津福祉文化共創研究会事務局日誌拝見(9/18~10/4)

※予定含む

- 9/15 9月(第78回)定例研究会資料事前配布作業
協働団体：静岡福祉文化を考える会の「30年誌」校正作業協力(～10/30)
- 9/18 焼津市V連10/4研修会参加申し込み(2名)
- 9/20 9月(第78回)定例研究会開催
- 9/24 菊川市の会議において、本会の活動内容紹介
- 9/25 島田市の会議において、本会の活動内容紹介
- 9/26 焼津福祉文化共創研究会通信第74号作成作業
- 10/01 焼津福祉文化共創研究会通信第74号発行、配布・メール送信作業実施
- 10/04 焼津市V連絡協議会主催「令和7年度ボランティア研修会」に2名参加

本会は、平成28年度から3年間、中学校区を中心に、地域の課題を学び合おうと、住民主体に「地域ささえあい講座」を開講し、延べ614名の地域住民が参加した。この学び合いの成果をもとに、継続的な話し合いの場をつくらうと、令和元年度に結成し、7年目の活動を展開中。身近な地域のことを一緒に語りませんか。本会(「焼津福祉文化共創研究会」)への問い合わせは下記をお願いします。

〒425-0041 焼津市石津3丁目10-8 焼津福祉文化共創研究会 平田 厚
Tel&fax054-624-1924 090-4861-4547
E-MAIL: monogusa-tomy@theia.ocn.ne.jp



焼津福祉文化共創研究会QRコード



協働団体：静岡福祉文化を考える会QRコード

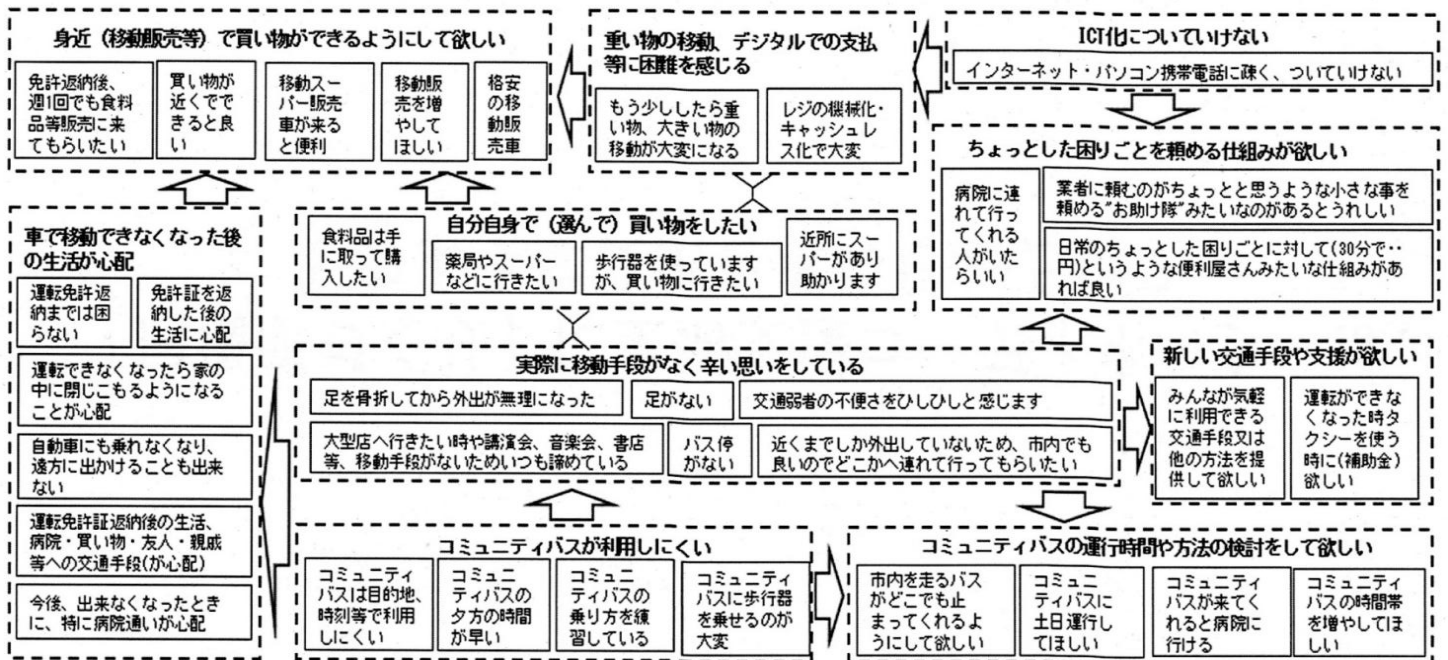
Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

焼津福祉文化共創研究会通信 第75号

10月定例研究会も、“ご近所福祉”論議で盛り上がる
ご近所で支え合いのできる、日頃から語れる環境とさりげない見守り

今年度は、「ご近所福祉」をいかにして創り上げるかをテーマにしている。10月定例会では、地域環境の再構築の課題を浮き彫りにしながら、支え合う仕組みの基盤をどのようにしたら創り出すことができるか、各地の実践事例を学ぶとともに、困りごとの内容を出し合いながら意見を交わした。

- 事例に学ぶ「A市における、心身機能の低下や運転免許証を返納した後の日常生活に関する支援の必要性」
 - (1)運転ができなくなっても、生活に必要な移動(買い物)ができるようにしてほしい。(2)老化により、心身機能が衰えても、自分で買い物ができる仕組みがほしい。(3)ちょっとした困りごとを頼める人、仕組がほしい。
- とにかく、「自助」を基に、身近なご近所においてできる支え合いを具体化するには、地域の現状を「見える化」「わかる化」して、「共助」を考えていくことの必要性があることを確認した。



●会員から、2つの困りごとの内容について意見を出し合った。

- ①一人暮らし高齢者(歩行困難)の災害時の避難介助は、
 - *自助→自宅に移動補助具を用意しておく
 - *共助→世帯調査から、個人情報保護を基に、民生委員・町内会長・組長等は、ご本人を把握する/町内会単位または、さわやかクラブ等で、常に管内のマップを作成し確認をする(見える化)。
 - *公助→移動補助具の補助制度
- ②高齢者(高齢世帯)のご近所とのコミュニケーションがとりにくいことについて、
 - *自助→日常生活では、常にご近所に話しかけていく努力/地域の行事への参加の機会をもつ/趣味や特技を仲間を持つ/回覧板をよく見る
 - *共助→さりげない見守り・安否確認の工夫/(プライバシー保護)組単位で、声掛けの努力し、決して排他的関係にしない/地域行事への参加呼びかけ/サロン活動への参加呼び掛け
 - *公助→新聞配達・郵便配達・牛乳配達・民生委員活動



*2年前(2023年11月)、ご近所の畑で、秋を十分に楽しませてくれたコスモス。今年は猛暑で.....



シリーズ②「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」を紹介します

協働団体:静岡福祉文化を考える会とともに、令和6年度の赤い羽根共同募金助成事業によりこの10年間にかるたを配布提供した皆さんに、「かるた活用状況調査」を実施した。その結果を基に、漫画家 法月理栄様の多大なご支援(イラスト作画)をいただき、「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」を作成した。本誌第74号から「シリーズ」で紹介している。

第2回は「家庭・家族：高齢者と孫との向き合い」

孫との会話を広げるとともに、「かるた」を活用して、これまでのご近所の様子を具体的に話しながら、これからのご近所同士のつながりの大切さを語る。

■進め方

- *孫に、ご近所さんとの関わりを聞いてみる。そして、これまでの高齢者のご近所の出来事を話しながら、ご近所の方との支え合いで、生活できていることを、実体験をもとに会話を進める。
- *普段の会話の延長線上で「かるた」を紹介し、特に「絵札」から読み取れるものを問い質し、関心がもてるように努める。「絵札」を紹介し、ご近所の現状と、これからのご近所を孫に託す。
- *「かるた読み札」の「キーワード」を強調する。

■楽しさの工夫

- *自由に語れる環境に努め、話題を一つづつ出す。
- *「絵札」から「読み札」を考えてみる。
- *「かるた」から地域診断を試みる。
- *「じゃんけんゲーム」「伝承ゲーム」「絵合わせゲーム」を組み入れる。

■留意点

- *「かるた」誕生を伝えて、身近な会話に努める。



シリーズ⑬ 若者発 ご近所福祉かるたで学ぶ



このコーナーでは、平成27年度・令和3年度・令和6年度に、協働団体:静岡福祉文化を考える会が、赤い羽根共同募金地域福祉広域助成事業により、世代を超えて身近な地域社会を学ぶ、地域福祉教育教材として作成した「若者発 ご近所福祉かるた」(本会活動参画)を本誌第57号から「シリーズ」で紹介。

今回は「や」「ゆ」「絵札」は漫画家 法月理栄様が作画。*かるた等の問い合わせは、054-624-1924 平田まで



や
やかましい
大人の注意
で
振り返り

昔は子どもの周りに「怒るおじさん」(やかましい大人)がいたものです。でも、そのやかましい大人も「地域の教育力」であることも。



ゆ
譲り合い
してもされても
笑み浮かぶ

心い「ゆ」の「ゆ」は、した人もされた人も気持ち良いものです。してよし、されてよし「小さな

親切」。

本会は、平成28年度から3年間、中学校区を中心に、地域の課題を学び合おうと、住民主体に「地域ささえあい講座」を開講し、延べ614名の地域住民が参加した。この学び合いの成果をもとに、継続的な話し合いの場をつくらうと、令和元年度に結成し、7年目の活動を展開中。身近な地域のことを一緒に語りませんか。本会(「焼津福祉文化共創研究会」)への問い合わせは下記にお願いします。
〒425-0041 焼津市石津3丁目10-8 焼津福祉文化共創研究会 平田 厚
Tel&fax054-624-1924 090-4861-4547
E-MAIL: monogusa-tomy@theia.ocn.ne.jp



焼津福祉文化共創研究会QRコード



協働団体:静岡福祉文化を考える会QRコード

Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

焼津福祉文化共創研究会通信 第76号

30年間の活動実践、「掛川市初馬区・一膳会」の“居場所”に学ぶ
高齢者の孤食・疑似孤食をなくし、共に住み慣れた地域で暮らし合う喜び

2025年度の本会の活動テーマを「地域活動実践事例から、これからのご近所福祉のあり方を探る」を掲げ、具体的には、①「研修事業」として、県内外の各地区の地域実践活動をもとに、“ご近所福祉”を検証し、身近な地域のあり方を議論する。②現場実践の機会を持つ(「若者発ご近所福祉かるた」の活用による、「近助」のあり方を各領域で学び合う機会を持つ)を基に、毎月の定例研究会で、各地の実践事例の資料等から、身近な生活領域の課題等を話し合ってきた。

このたび、長年、高齢者等と向き合う中で、高齢者の生きがいと生活改善を目的に、「集まる居場所」に取り組まれている、「掛川市初馬区・一膳会」(代表 袴田豊昭氏)を12月12日(金)に、(1)地域性の意義を学ぶ (2)集まる居場所の仕組みを学ぶ (3)地域活動の継続のあり方を学ぶ (4)高齢者とのふれあい交流から“ご近所福祉”を学ぶ場等5つの着眼項目を掲げて、訪問研修することが出来た。

これまでに、「一膳会」との交流は、「協働団体：静岡福祉文化を考える会」が、平成27年度に、県民からの尊い赤い羽根募金による助成金事業で作成した「若者発 ご近所福祉かるた」を広く地域福祉教育教材として有効活用しようと、「かるた」が誕生した直後に、若者とともに、「一膳会」を訪問していたことが「静岡福祉文化を考える会機関誌 OUR LIFE 104号」(平成28年4月1日発行)で次のように紹介されていた。

研修当日の日程

- 07:50 焼津発(移動：自家用車)
- 08:40 掛川市初馬「5区公会堂」着
- 08:50 「一膳会」代表袴田豊昭氏より、これまで30年間の活動の概要説明を聴く
- 09:00 (1)開会・自己紹介
- 09:10 (2)メリークリスマス
- (3)参加者とともに、介護予防体操・輪投げ・ゲーム・合唱で交流
- *この間、男性スタッフ4名は調理
- 11:15 (4)和やかに、ふれあいクリスマス会食
- 12:15 (5)ご近所あれこれを紹介
- 12:30 (6)2つのグループに分かれて、「ご近所」を語り合う
- 13:00 (7)閉会・参加者を見送る
- 13:20 (8)男性スタッフの皆さんと意見交換
- 14:00 掛川市初馬「5区公会堂」発
- 15:10 焼津着

■ 掛川市初馬地区「一膳会」サロンで和やかに交流 ■

毎月第4金曜日に、地域の長寿者の皆さんがお寺の住職さん(袴田豊昭様)と過ごす「一膳会サロン」。「若者発“居場所”あり方研究会」メンバー3名と共に、2月26日(金)に訪問し、出来上がった「かるた」を持参し、和やかにふれあい交流をした。日頃、お仲間と遠慮されている長寿者のAさんなどは、めったに若者とふれあう機会が少ない環境にあって、この日ばかりは、大いに張り切った姿に、会場は大笑いのひと時であった。



“真の地域ぐるみの福祉教育実践活動”を学ぶことが出来ました。なんと、そこには、“自然体”であること、そして“楽しい”を共有していました。男衆7人が、平均年齢89歳(最高齢者98歳)の女性14名を迎えた楽しいひと時を演出していました。



*会場に到着した後、参加者がそれぞれ自己紹介をし、その後、袴田豊昭さんから、この30年間の「一膳会」の取組を説明していただいた。



*男衆スタッフによる会場準備が整ったところで、「メリークリスマス！」 手際よく、片付が終わり、次は「輪投げ大会」や「ゲーム」の数々。



*和やかに、数々のゲームを楽しんでいる間に、男衆スタッフ4人が、腕を振るわせて調理に専念。本日は、「クリスマス特別メニュー」。



*お仲間と一緒にのお食事はとてもおいしい。「みかん」や「イチゴ」の差し入れも。その後、2つのグループに分かれて「初馬ってどんどこ」をお聞きしました。あっという間に時間が過ぎていきました。男衆スタッフの皆さんに、地域活動への熱い思いをお聞きしました。



シリーズ③「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」を紹介します

協働団体:静岡福祉文化を考える会とともに、令和6年度の赤い羽根共同募金助成事業によりこの10年間にかかるたを配布提供した皆さんに、「かるた活用状況調査」を実施した。その結果を基に、漫画家 法月理栄様の多大なご支援(イラスト作画)をいただき、「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」を作成した。本誌第74号から「シリーズ」で紹介している。

第3回は「居場所・サロン 年間計画で、定例開催日にプログラム化」

支援者中心の運営にならないように、利用者主体のひと時が過ぎるように、年間計画を作成し、運営にあたる支援者は、年間を通じて、「かるた活用日」を明確にし、対等に語れる環境に努めるとともに、利用者の地域環境を、かるたを通じて、支援者が学ぶ機会をもつ。

■進め方

- *利用者主体の居場所・サロンの運営に心掛け、年間計画に、定例の居場所・サロン開所日を明確にし開所日の基本的なスケジュールのもとで「かるたで語る」を30分程度組み入れて展開する。
- *一般的なかるた取りをしながら、利用者のご近所を「かるた」の「読み札」をもとに、順番に、利用者のご近所を紹介し、参加者全体に話題を共有する。
- *利用者の参加状況により小グループにして、それぞれ支援者は、各小グループに加わり進行にあたる。

■楽しさの工夫

- *「ご近所の出来事」を具体的に、「昨日の私のご近所の出来事」「うれしかったご近所の話」等を支援者が具体的に事例を紹介するとわかりやすい。
- *「かるた」の活用前に、支援者が、事前にご近所まつわる話題を話しながら、語れる環境に努める。
- *「ジャンケンゲーム」や「絵合わせゲーム」も導入する。

■留意点

- *競争意識を持った「かるた取り」にならないように、事前に展開方法を説明し、安全に留意する。
- *誰もが参加できる展開方法を、支援者相互に確認する。
- *利用者と支援者が対等な関係で、むしろ高齢者等から学び合う、和やかな環境づくりに努める。



**「11月定例研究会」における議論：各地の実践事例に学ぶ
持続可能なコミュニティ活動は、地域性を理解し合い、世代を超えてつなぐ努力**

今年度は、「ご近所福祉」をいかにして創り上げるかをテーマに、定例研究会で意見を出し合っている。

「11月定例研究会」では、まず、県内の活動事例資料から、「世帯数が増えている地域課題の認識」「平成の合併後のコミュニティ活動の維持から学ぶ」の2つの事例を基に、身近な地域における課題を再確認した。

(1) 「世帯数が増えている地域課題の認識」

- * 年々世帯数が増加傾向にある地域を、外部の住民から見ると、「若い人や子どもたちが多くいて、にぎやかで羨ましい」と感じている。確かに、賑わいがあり、子どもたちの元気な姿を見ることができ微笑ましい環境になっている。しかし、現状は、長年、その地域に住む世帯(住民)は、既に、地域の役割を経験された、元気な年配者は、地域の中で見え隠れしている。一方、まだ、ここに転居してまもなく、地域のことがわからないという立場の会員は多く、役員選出時期が来ると、一苦労し、コミュニティ活動を維持していく上で、多くの課題が浮上している現実がある。
- * 少数の長年在住年配者層からは、これからの地域運営は、若い世代が、積極的に「コミュニティ組織の存在意義」を認識して、積極的に地域活動に参加出来る環境づくりに努力してほしいという意見がある。
- * 若い世代が積極的に地域活動に参画するには、常に、現状を具体的に、「見える化」「わかる化」していく情報発信の努力が必要となる。
- * ご近所の会員同士が雑談できる場づくり、日常的に、「組」で、集まる機会を工夫して、顔の見える環境をつくる努力をしていきたい。
- * 「コミュニティ組織」をいかに維持していくべきか、地域全体で「社会教育領域」の中で学び合うことを考えたい。
- * 行政の立場からも、地域活動の必要性を発信する課題はないだろうか。
- * 本会では、これまで「児童・生徒対象調査」を実施してきた。そして、その結果を常に地域に発信してきた。児童・生徒は、それなりに、「コミュニティ」に関心を持ち、地域活動に参加の意向が回答結果から見られる。大人社会は、地域活動を見える化し、積極的に、世代を超えて、地域活動参加の機会をつくる工夫をしたい。
- * 「大人対象」「高齢者対象」の各調査も実施してきた。この領域でも、呼びかけがあれば参加をする意向の回答は多い。地域活動のそれぞれの役割を明確にして、具体的な参加を呼び掛けることを心がけたい。
- * 「コミュニティ組織」をみんなで創り上げ、子どもたちを育む「地域力」を創り出すためには、若い世代が、これからの地域創出に向けた結束を発揮する時期がすでに来ている。任期1年や2年で交代する役員選出による運営や、単年度計画による、地域活動では、なかなかつながらない。「継続的な地域活動計画」の策定の検討。

(2) 「平成の合併後のコミュニティ活動の維持に努力されている M 地域の活動事例から学ぶ」

- * 旧町の一地域であった「M 地域」は、平成の大合併を機に「推進会組織化」をするとともに、更には「一般社団法人組織化」し、合併前の地域活動の維持に努めている。
- * これからの地域組織の維持のために、中学生以上の住民アンケートを実施し、これからの地域づくりを検討している取り組みは、大いに学びたい。
- * これまで、合併前に取り組んできた各種事業を見直し、「単なるイベント事業」に取りくむコミュニティ組織から、「課題解決事業」として取り組む努力されているプロセスは意義深い。
- * 全住民が積極的に地域活動に関心を持ち参画し、地域づくりに関心をもつかのプロセスは大切なこと。

● 前月に引き続き、「身近な地域生活での困りごと」を2件、それぞれの立場で意見を出し合った。

困りごと (内容)	対象者の状況	自 助	共 助	公 助
免許証を返納した高齢者の移動手段	高齢者 (高齢世帯)	ご近所との交流	地域内での支援組織化	乗り合いタクシー 自主運行バス運行
緊急時の連絡手段	障害者とその家族	ご近所との交流	連絡手段の共有 さりげない見守り	見守りネットワーク 民生委員活動

Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

焼津福祉文化共創研究会通信 第77号



新年あけましておめでとうございます。

地域を知る、地域で学ぶ、住民主体の講座開講から誕生した「焼津福祉文化共創研究会」は8年目の活動に入ります。今年も、身近な地域の話題を自由に語り合う活動を行います。よろしくお祈りします。

2026年 元旦
焼津福祉文化共創研究会



集まる居場所は、自然体がいい。語れる環境、男性の出番、楽しいをみんなで創る。
12月(第81回)定例会(12/14 開催)は、「掛川市初馬区・一膳会」からの学びを語り合う。

*** 地域性を学ぶ**

- ・掛川駅から1.5キロ北東の住宅地域から、粟ヶ岳すそのまで広がる自然豊かな農村地域である環境から、人的交流が深いと感じた。なにか、石津地域の昔を思い出したような環境であった。
- ・声を掛け合い、お互い様の関係が維持されているように伺えた。
- ・代表者である住職の存在(キーパーソンの立ち位置)は大きく、男性は地域環境を理解したうえで、福祉活動への参画が自然につながっている。活動自体、男性の居場所機能があること、男性は、日常的に人的接点があること、地域には、男性だけの集まる場もあると伺った。

*** 集まる居場所の仕組み**

- ・男性スタッフ7名が支援者として、約15名程の女性(平均年齢89歳、最高年齢97歳)は、1月2回の集いを楽しみに参加している。「語れる環境」も読み取ることが出来た。
- ・男性スタッフによる運営は、調理を担うグループと、参加者とともにふれあい交流をするグループが自然体で日課を創り上げている。和やかに、見事な連係プレーが出来ていた。
- ・約30年間継続して運営していることで、民生委員活動の一環とも受け止めることが出来る。

*** ふれあい交流からのご近所福祉を学ぶ**

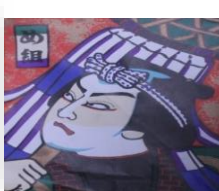
- ・孤食防止を目標に掲げているが、個々の高齢者の状態ではなく、地域における日常生活全般から、家族や地域からの孤立化を防ぐための運営と受け止めることが出来る。
- ・誘われて参加し、仲間が出来、その仲間から野菜の栽培の手ほどきを教えてもらい楽しい。
- ・91歳過ぎてから誘われて参加しているが、もっと早くから参加すればよかったと語る参加者がいた。

*** 高齢者から見た居場所を学ぶ**

- ・お互いに、支え合い、居場所全体では、参加者同士が言い合えるつながり雰囲気を読み取ることが出来た。お互いに、参加者自身は立ち位置をわきまえていたように受け止めることが出来た。



* 男性スタッフによる「クリスマスメニューの会食」の後、2つのグループに分かれて「初馬のご近所あれこれ」をお聞きした。そして、男性スタッフによる本日の取組の反省会に同席させていただいた。改めて、初馬地区の地域力のすごさを学んだ一日であった。



* 親子が、富士山にとどくと石津海岸公園で凧揚げ 石津西公園でも

* こんな遊びも、今は昔のことになったか



シリーズ②① 若者発 ご近所福祉かるたで学ぶ

このコーナーでは、平成27年度・令和3年度・令和6年度に、協働団体：静岡福祉文化を考える会が、赤い羽根共同募金地域福祉広域助成事業により、世代を超えて身近な地域社会を学ぶ、地域福祉教育教材として作成した「若者発 ご近所福祉かるた」(本会活動参画)を本誌第57号から「シリーズ」で紹介。

今回は「り」「る」「絵札」は、漫画家 法月理栄様が作画。

*かるた等の問い合わせは、054-624-1924 平田まで



安心・安全な街は清潔な地域環境から生まれます。「環境美化」は、日頃から、正しいゴミの分別を徹底しましょう。



老若男女、誰もが楽しめるお祭りが地域の発展につながります。住民の努力で、これまでの「地域行事」を継続して、町おこしに努めましょう。



シリーズ④「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」を紹介します

協働団体：静岡福祉文化を考える会とともに、令和6年度の赤い羽根共同募金助成事業によりこの10年間にかるたを配布提供した皆さんに、「かるた活用状況調査」を実施した。その結果を基に、漫画家 法月理栄様の多大なご支援(イラスト作画)をいただき、「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」を作成した。本誌第74号から「シリーズ」で紹介している。

第4回は「居場所・サロンその2 認知症カフェで地域を語る」

■進め方

- *あまり、理論的な活用方法の説明を重視しないで、読み手は、声を大きくはっきり伝わるように心掛け、最後まで「読み札」が読み終わったら、かるた取りをする。
- *参加者の状況により、見学する方々もいて、応援し合う中で、楽しいひと時を過ごす工夫をする。少し、間を取りながら、「読み札」の内容を、応援している皆さんにも、話題を広げていく。または、支援者自身のご近所を紹介しながら、利用者の明日につなぐ明るさの保有に心掛ける。

■楽しさの工夫

- *全てのかるたを使用しないで、地域の環境をある程度理解していくために、あらかじめ、「ご近所あるある、この現状」と題して、当日使用する「かるた」を選別して、ゆっくりと展開をしていく。
- *見学・応援する方々を設けることで、和やかさを広げる試みもできる。



■留意点

- *競争心をもたないように、「読み札」の紹介は、ゆっくりはっきりとした口調で進める。

本会は、平成28年度から3年間、中学校区を中心に、地域の課題を学び合おうと、住民主体に「地域ささえあい講座」を開講し、延べ614名の地域住民が参加した。この学び合いの成果を、今後、継続的に話し合っていこうと、令和元年度に結成して、7年活動に取り組んでいる。身近な地域のことを一緒に語りませんか。

本会「焼津福祉文化共創研究会」への問い合わせは下記にお願いします。

〒425-0041 焼津市石津3丁目10-8 焼津福祉文化共創研究会 平田厚

Tel&fax054-624-1924 090-4861-4547

E-MAIL: monogusa-tomv@theia.ocn.ne.jp



焼津研究会
QRコード



静岡考える会
QRコード

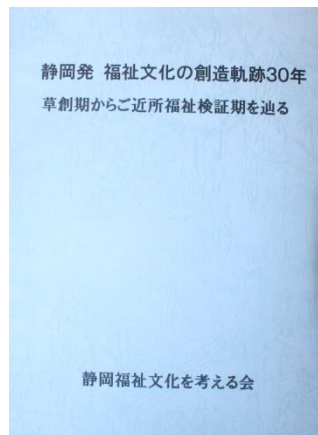


Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

焼津福祉文化共創研究会通信 第78号

「協働団体：静岡福祉文化を考える会30年検証誌」が完成 本会結成後7年間、調査研究活動中心に連携して「福祉文化」を発信

既に、「本誌第73号(9月号)」で、「協働団体：静岡福祉文化を考える会」が、2025年度に、30年の節目を迎えるにあたり、2023年から、「30年誌」作成の準備に取り掛かり、2024昨年度から、本格的に編集作業に取り掛かり、本会は、結成から今日まで7年間にわたり、「静岡福祉文化を考える会」と協働で小地域における福祉文化実践活動に取り組んできた経緯から、関連事業として、「静岡発 福祉文化の創造軌跡30年 草創期からご近所福祉検証期を辿る(30年検証誌)」(本文264P)の編集作業の完成に向けて、全面的な協力の経緯を掲載した。そして、本会の7年間の活動の取組を「第9章 焼津福祉文化共創研究会との協働による7年の歩み」として、掲載する内容を紹介した。1月10日に完成(200部)し、焼津市管内では、関連行政部局をはじめ、図書館、協力者、小川及び港各地域交流センター(図書室に配架要請)等に提供を順次実施している。改めて、掲載内容を紹介します。



「静岡発 福祉文化の創造軌跡30年 草創期からご近所福祉検証期を辿る」 目 次

- はじめに 本会の原点「静岡発 福祉文化の創造」30年を視る
- 第1章 「静岡発 福祉文化の創造」の原点を辿る
- 第2章 県内各地で学んだ「現場セミナー」から福祉文化を発信
- 第3章 協働で取り組んだ「第13回日本福祉文化学会全国大会 IN 静岡」
- 第4章 静岡県委託事業「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業」7年間
- 第5章 高齢者からの学びで浮き彫りになった「ご近所福祉」
- 第6章 「ご近所福祉こそ福祉文化」を切り拓く
- 第7章 機関誌「OUR LIFE」から「静岡発 福祉文化の創造」を視る
- 第8章 30年間の「調査研究活動」で福祉文化を発信
- 第9章 「焼津福祉文化共創研究会」との協働による7年の歩み
- 展望 更なる「静岡発 福祉文化の創造」これからの課題を探る
- 資料編
 - 1 静岡福祉文化を考える会30年の歩み
 - 2 令和7年度 静岡福祉文化を考える会活動計画
 - 3 静岡福祉文化を考える会規約

焼津福祉文化共創研究会事務局日誌拝見(12/14~1/17)

- 12/14 「研究会通信第76号」発行・印刷作業・メール送信・配布作業実施
- 12/14 12月(第81回)定例研究会開催
- 12/17 菊川市会議において、本会の活動状況紹介
- 12/23 「研究会通信第77号(1月号)」編集作業
- 12/24 「掛川市初馬区・一膳会」(代表 袴田豊昭様)へ、見学研修(12/12)の礼状送付
- 12/24 「研究会通信第76号(12月号)・第77号(1月号)」を、管内各方面に配布作業
- 12/26 「協働団体：静岡福祉文化を考える会 30年検証誌」入稿
- 12/26 県立中央図書館より、「研究会通信」の提供依頼あり
- 1/ 9 「協働団体：静岡福祉文化を考える会 30年検証誌」200部納品
- 1/15 県立中央図書館との連絡調整をし、「研究会通信」の提供は、メールによる提供とし、本日提供する
- 1/17 焼津市V連絡協議会代表者会出席 1月(第82回)定例研究会開催
「協働団体：静岡福祉文化を考える会 30年検証誌」順次発送作業開始



「ロウバイ」の香り漂う



シリーズ② 若者発 ご近所福祉かるたで学ぶ

このコーナーでは、平成27年度・令和3年度・令和6年度に、協働団体：静岡福祉文化を考える会が、赤い羽根共同募金地域福祉広域助成事業により、世代を超えて身近な地域社会を学ぶ、地域福祉教育教材として作成した「若者発 ご近所福祉かるた」(本会活動参画)を本誌第57号から「シリーズ」で紹介。

今回は「れ」「ろ」「絵札」は、漫画家 法月理栄様が作画。

*かるた等の問い合わせは、054-624-1924 平田まで



地域には、高齢者や障害がい児・者の方やいろいろなハンディを持つ人がいます。報告・連絡・相談時の言葉や態度はしっかりと「相手理解」を心掛けよう。



亀の甲より年の功、長寿者に学ぶことは、いろいろな場面で大変多くあります。「長寿者の社会参加」で地域力向上に努めましょう。



シリーズ⑤「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」を紹介します

「協働団体：静岡福祉文化を考える会」とともに、令和6年度の赤い羽根共同募金助成事業により、この10年間にかかるたを配布提供した皆さんに、「かるた活用状況調査」を実施した。

その結果を基に、漫画家 法月理栄様の多大なご支援(イラスト作画)をいただき、「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」を作成した。本誌第74号から「シリーズ」で紹介している。

第5回は「居場所・サロンその3 地域のふれあい行事」

■進め方

- * 行事や会場の規模により、「かるた」のセット数を事前に用意する。
- * 年代、性別、コミュニティ組織役員等を均等に各グループの組み分けをする。(1グループ8名程度を目安にグループ分け)
- * 「かるた」誕生の紹介をし、世代を超えた交流の集いに努める。
- * 「読み手」は、ゆっくり読む。全体の雰囲気を見ながら、「かるた取り」を楽しみながら、世代を超えた「ご近所」を語り合う。

■楽しさの工夫

- * 「絵札」を手にした人は、「ご近所を一言」紹介できるように進める。
- * 大人は、子どもたちに「ご近所」の良さを語り、子どもたちに託す。

■留意点

- * 上下の関係をつくらず、大いに、語れる環境に努める。
- * 全体を進行する人は、常に、全体の雰囲気を把握しながら進める。



本会は、平成28年度から3年間、中学校区を中心に、地域の課題を学び合おうと、住民主体に「地域ささえあい講座」を開講し、延べ614名の地域住民が参加した。この学び合いの成果を、今後、継続的に話し合っていこうと、令和元年度に結成して、7年間活動に取り組んでいる。身近な地域のことを一緒に語りませんか。

本会(焼津福祉文化共創研究会)への問い合わせは下記にお願いします。
〒425-0041 焼津市石津3丁目10-8 焼津福祉文化共創研究会 平田 厚
Tel&fax054-624-1924 090-4861-4547 E-MAIL: monogusa-tomv@theia.ocn.ne.jp



焼津福祉文化共創研究会 QRコード 静岡福祉文化を考える会 QRコード

Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

焼津福祉文化共創研究会通信 第79号

結成して7年、2025年度活動テーマ『地域活動実践事例から、これからのご近所のあり方を探る』を基に、身近な地域の現状とこれからの地域づくりを語り合う

港公民館(現港地域交流センター)で、住民主体に平成28年度から3年間取り組んだ「港地域ささえあい講座」から誕生して7年の歩みとなった本会は、ここに、2025年度を振り返る時期を迎えた。

これまで、浮き彫りにしてきた地域課題を基に話し合い、実践することを活動目的に掲げ、協働団体:静岡福祉文化を考える会活動への支援とともに、下記の活動に取り組むことができた。

1. 定例研究会・部会・研修会等

- (1) 定例研究会…12回開催(原則毎月第2土曜日 18:30~21:00)
- (2) 協働団体:静岡福祉文化を考える会「30年検証誌」企画・編集作業参画…全10回開催
- (3) 焼津市V連絡協議会に結成当初から加盟し7年を経過した。市内の活動団体と親睦を図った。
①代表者会4回出席 ②V連主催 研修旅行(2名)参加 ③V連主催 研修会(2名)参加

2. 活動内容

- (1) これまで6年間取り組んできた「調査研究事業」(「地域ぐるみの居場所」「ご近所福祉」「児童の福祉観」「高齢者の地域参加」「中学生のご近所福祉観」「調査の持つ意義」)を検証
- (2) 会員の気になる「ご近所福祉」の現状分析
- (3) 協働団体:静岡福祉文化を考える会 「若者発 ご近所福祉かるた活用状況」把握
- (4) 協働団体:静岡福祉文化を考える会 「30年検証誌」の編集及び配布提供検討協議
- (5) 掛川市初馬[一膳会]見学研修会開催(4名参加)
男性7名主中心に、地域の女性高齢者(87歳から97歳)15名程を月2回、9時~15時頃まで、介護予防体操や会食、講話等の居場所活動を学び、関係者との意見交換をした。
- (6) 広報啓発活動
①「日本福祉文化学会」HPを主体に、「静岡福祉文化を考える会」ブログとのリンクによる本会ブログにより、広く活動を通じた問題提起を発信。
②焼津福祉文化共創研究会通信の発行(原則、毎月1回発行、A4版、両面印刷100部)
*紙媒体:配布先90部 *メール送信:関係機関・団体・個人等50か所 *ブログ立ち上げ
③マスコミへの積極的な情報提供
- (7) 関係機関・団体との連携・情報提供



シリーズ⑳ 若者発 ご近所福祉かるたで学ぶ

このコーナーでは、平成27年度・令和3年度・令和6年度に、協働団体:静岡福祉文化を考える会が、赤い羽根共同募金地域福祉広域助成事業により、世代を超えて身近な地域社会を学ぶ、地域福祉教育教材として作成した「若者発ご近所福祉かるた」(本会活動参画)を本誌第57号から「シリーズ」で紹介。

今回は「わ」「を」「絵札」は、漫画家 法月理栄様が作画。*かるた等の問い合わせは、054-624-1924 平田まで



今こそ、大人社会が若者の地域デビューの機会をつくり提供していこう。「若者の居場所」は、身近な地域にあります。地域参加を積極的に呼びかけよう。



「若者発ご近所福祉かるた」の読札や絵札を使い、大いにご近所を語り合いコミュニケーションを深め、身近な地域のこれまでとこれからを学ぼう。

焼津福祉文化共創研究会事務局日誌拝見(1/17~3/14)

- 1/17 焼津市V連絡協議会 第3回代表者会出席
1月(第82回)定例研究会開催
「協働団体:静岡福祉文化を考える会 30年検証誌」
順次発送作業開始
- 1/24 静岡福祉文化を考える会事務局協議
- 1/27 「静岡福祉文化を考える会30年検証誌」取材対応
- 1/28 「焼津福祉文化共創研究会通信第78号」編集作業
静岡県コミュニティづくり推進協議会会議において、
本会及び静岡福祉文化を考える会活動内容報告
- 1/29 沼津市障害者自立支援協議会において本会の活動紹介
- 2/ 2 沼津市人材育成講座において、本会活動紹介(研究会通信配布)
- 2/ 4 「静岡福祉文化を考える会30年検証誌」発送作業継続実施(残 約61部)
配布提供先(個人・団体等)から、意見が届く(現在35件)
- 2/ 7 静岡県コミュニティづくり推進協議会主催「コミュニティフォーラム2026」開催
- 2/ 9 会員宛て、2月(第83回)定例研究会関連資料配布作業
- 2/10 「焼津福祉文化共創研究会通信第78号」配布及びメール送信作業
- 2/14 2月(第83回)定例研究会開催
- 3/07 焼津市V連絡協議会 第4回代表者会出席
協働団体:静岡福祉文化を考える会主催「第2回公開型研修会」にて本会研究会通信配布
- 3/14 3月(第84回)定例研究会開催(2025年度活動総括、2026年度活動確認)



春を彩るツルコザクラ



シリーズ⑥「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」を紹介します

「協働団体:静岡福祉文化を考える会」とともに、令和6年度の赤い羽根共同募金助成事業により、この10年間にかるたを配布提供した皆さんに、「かるた活用状況調査」を実施した。

その結果を基に、漫画家 法月理栄様の多大なご支援(イラスト作画)をいただき、「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」を作成した。本誌第74号から「シリーズ」で紹介している。

第6回は「コミュニティその1 ご近所のお友だちとおしゃべり会」

■進め方

* 気軽に声を掛けられるご近所さん同士が、気兼ねなく活用できる自治会や町内会が維持管理をしている「自治会館」「地区センター」「地区老人憩いの家」「町内会集会所」「町内会公会堂」において、使用時間内で、気の合うご近所さんが主体的に、本音で語り合い、ひと時を過ごす居場所で、ご近所を語り合う時に、「かるた」を有効に活用する。自然に集まった仲間と、ある時には、お弁当持参でゆったりとしたご近所を語れる環境に努める。

■楽しさの工夫

* ご近所との関係を維持し、積極的に地域行事などに参加し、世代を超えた関係づくりに努め、居場所で自由に交流することを働きかける。

■留意点

- * 建物の管理責任者には、使用日時、時間帯等を予め届けをだして、安全を確認する。
- * 予め「かるた」の借用について、問い合わせをする。



本会は、平成28年度から3年間、中学校区を中心に、地域の課題を学び合おうと、住民主体に「地域ささえあい講座」を開講し、延べ614名の地域住民が参加した。この学び合いの成果を、今後、継続的に話し合っていこうと、令和元年度に結成して、7年間活動に取り組んでいる。身近な地域のことを一緒に語りませんか。

本会(焼津福祉文化共創研究会)への問い合わせは下記にお願いします。
〒425-0041 焼津市石津3丁目10-8 焼津福祉文化共創研究会 平田 厚
Tel&fax054-624-1924 090-4861-4547 E-MAIL: monogusa-tomv@theia.ocn.ne.jp



焼津福祉文化共創研究会
QRコード



静岡福祉文化を考える会
QRコード

